

科目名	情報・統計処理（国際） Informatics/Statistical Processing	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期） [岐阜学関連科目]	科目区分	演習
担当者	長谷川 旭	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	統計学の基本的な概念を学ぶとともに実際の運用の場面での使い方を学ぶ。具体的には基本統計量、記述統計・推測統計の違い、正規分布、検定等とその応用を学習する。統計の基礎について学び、演習を通じて、情報分析力と統計手法、データ活用の方法を身に着けることを目的とする。		
授業概要	最初に、表計算ソフトの利用法について学ぶ。次に、様々な情報を客観的に記述、解釈するための手段である統計の基礎について学び、その分析手順を修得する。次に、学んだ知識を使い、データ収集と収集したデータの分析を行う。実験的な演習・分析や、地域（岐阜）に関する実際のデータ（政府の公的統計など）の分析を通じて、学んだ知識の定着を行う。最後に、データサイエンスやAIに関する文献調査をし、プレゼンテーションによる発表を行い、お互いの発表を聞くことで、この分野に関する知識を深めるとともに、視野を広げる。 【SDGs：4, 9】 【岐阜学関連の授業回：⑪, ⑫, ⑬, ⑭, ⑮】		
授業計画	① ガイダンス、身近にある統計 ② 表計算ソフトの利用方法（関数など） ③ データビジュアライゼーション、データ分析ツール ④ 代表値とばらつき ⑤ クロス集計表、ヒストグラム ⑥ 四分位法、箱ひげ図 ⑦ 相関分析、回帰分析（1） ⑧ 相関分析、回帰分析（2） ⑨ 統計的仮説検定（1） ⑩ 統計的仮説検定（2） ⑪ 統計処理演習（1）データの収集と分析 ⑫ 統計処理演習（2）データの分析とまとめ ⑬ 統計処理演習（3）発表 ⑭ 統計処理演習（4）発表、データサイエンスとAIの関連 ⑮ 統計処理演習（5）発表、総括とまとめ		
予復習等	【予習】ガイダンスや毎回授業中に指示する。 【復習】講義内容を復習しながら、授業中に指示する課題等に取り組むこと。		
評価方法	平常点15%、課題および授業内試験85%		
履修条件	なし。		
教科書	なし、授業内で資料配布を行う。		
参考書	『Excelデータ分析の教科書』、日花弘子著、SBクリエイティブ株式会社出版		

科目名	中国文化論 Chinese Cultural Studies	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	講義
担当者	王 張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	古くから中国と日本は貿易や文化の交流が多く、身近な存在である。一方、両国間には領土問題や歴史問題があり、民間においても双方理解し難いところがたくさんある。本講義は、日々のニュースからその歴史的、社会的、文化的背景に焦点をあて、受講生に中国社会の特徴と中国式の考え方に触れてもらう。日本と異なる中国社会や文化の特徴を理解し、グローバル化社会で多文化が共存していくことの大切さと、自分自身の世界観を広げることを目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：トヨタ自動車関連企業に10年間勤務（海外出向経験あり）。その後、中国国内テーマパークの水族館部門にて、副館長を5年間勤め、運営に携わった】 現代中国における民族、音楽、芸能、婚姻、ジェンダーなどの最新事情を紹介しながら、中国の社会問題と一緒に考える。 この授業を通じて、日本と異なった文化と価値観がどのように形成されてきたか理解を深める。この授業は隔週にて計8回開講する。中国大連大学から来る交換留学生が履修し、岐阜市立商業高校ビジネス科2年生との高大連携授業でもある。留学生や、高校生と交流しながら異文化に触れてもらう。 【SDGs：⑩, ⑯】		
授業計画	① 中国って、どんな国？ ② 中国の「Z世代」 ③ 中国の教育 ④ 中国の女性 ⑤ 中国式考え方とは ⑥ グループ発表 ⑦ グループ発表 ⑧ グループ発表		
予復習等	【予習】日頃のニュースやトレンドに関心を持つこと。 【復習】疑問に感じたことを調べたり、teamsにて質問や意見交換などを行う		
評価方法	出席状況30%、感想文の提出30%、グループ発表40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	なし（PowerPointを使用）		
参考書	なし		

科目名	英語コミュニケーション I a English Communication Ia	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期） [岐阜学関連科目]	科目区分	演習
担当者	コットン ランダル	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	This class will help students improve their English conversation skills. Clear training in how to speak English like a native speaker will be given. The aim is to help students understand the differences between Japanese and Western cultural speaking styles in order to communicate more effectively. With this knowledge, students will be able to use simple expressions to speak like native speakers of English.		
授業概要	Students will spend much time in class learning vocabulary and speaking with classmates about everyday life topics. Vocabulary quizzes will be given at the end of each unit. By the end of the course, if students work hard, they will be able to speak English more fluently, accurately, and with more complexity than they could at the beginning of the year. 【SDGs : 4, 17】 【岐阜学関連の授業回 : ④, ⑤】		
授業計画	① Unit 1 (Part 1): Three Golden Rules / Natural greetings ② Unit 1 (Part 2): Golden Rule #1 / Club activities ③ Unit 1 (Part 3): Implicit questions / Part-time jobs ④ Quiz / Unit 3 (Part 1): Hometown attractions ⑤ Unit 3 (Part 2): Hometown likes & dislikes ⑥ Unit 3 (Part 3): Where will you live in the future? ⑦ Quiz / Practice for speaking test ⑧ Speaking Test #1 ⑨ Unit 2 (Part 1): Daily routines ⑩ Unit 2 (Part 2): Hardest / easiest days of the week ⑪ Unit 2 (Part 3): Daily activities / Golden Rule #3 ⑫ Quiz / Unit 6 (Part 1): Music ⑬ Unit 6 (Part 2): Movies ⑭ Unit 6 (Part 3): TV, games, and social media ⑮ Quiz / Practice for speaking test ⑯ 定期試験 (Speaking Test #2)		
予復習等	【予習】 Study the textbook before coming to class each week. 【復習】 Review the lessons to better remember the material covered in class.		
評価方法	Participation (20%); Vocabulary quizzes & homework (30%); Speaking tests (50%)		
履修条件	Students need to have a desire and motivation to speak English.		
教科書	Conversations in Class (3E). Jerry Talandis Jr. and Bruno Vannieu. Alma Publishing, Kyoto. 2015.		
参考書	http://www.cic-multimedia.com/		

科目名	英語コミュニケーション I b English Communication Ib	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期） [岐阜学関連科目]	科目区分	演習
担当者	杉浦 エレナ	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	The objectives of this course are for students to develop practical communication skills for everyday English conversations. To this end the course will focus on building up confidence in English abilities through scaffolded listening and speaking activities. Students will also learn about American and British customs and culture in order to introduce a more international outlook.		
授業概要	【担当者の実務経験：日本の文化になじみのない英会話教師をサポートしてきた職務経験を活用し、コミュニケーションをとる中で日本と外国の文化的なギャップへの実際の経験に基づく対処法を身につけます。】 The course will review speaking activities familiar to the students such as introductions, family life and hobbies before introducing more challenging communication activities such as asking for information, telling a story and discussing problems. 【SDGs : 4】		
授業計画	① Orientation. Introduction and ice breaker activities. ② Class album. Simple information exchange. Polite, impolite questions. ③ Favorite photos. Describing family and friends. Follow up questions. ④ Personal goals. Describing future goals. Asking for advice. ⑤ Believe it or not. Telling a story. Reacting with interest. ⑥ Where I grew up. Using the past tense and `used to`. ⑦ Bargain shopper. Shopping expressions and bargaining for goods. ⑧ Review and mid term speaking assessment. ⑨ The perfect gift. Japanese, American and UK gift giving customs. ⑩ Party planner. Holidays in Japan, the US and the UK. Invitations. ⑪ Music profile. Likes, dislikes and genres of music. Reported speech. ⑫ Style makeover. Describing appearance and clothing. Giving advice. ⑬ Honesty. Telling stories. Asking hypothetical questions. ⑭ Making things better. School problems. Using `too` and `(not) enough`. ⑮ Review and speaking assessment. ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 Weekly vocabulary lists. 【復習】 Mid term and end of term speaking assessments.		
評価方法	Mid term speaking assessment 20%. End of term speaking assessment 20%. Participation 10%. End of term examination 50%.		
履修条件	なし		
教科書	Active Skills for Communication Book 1. HEINLE CENGAGE learning. Sandy, Kelly.		
参考書	なし		

科目名	検定英語演習 I Skills for English Proficiency Exams I	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	佐竹 直喜	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	TOEIC500 ～ 550点獲得を目指して必要な英語力を身につけることを目的とする。 TOEICに必要な英単語力の強化、リスニング演習、リーディング演習を行い、指定のテキストにも毎時間取り組む。 また、ぜひTOEICのための英語の勉強にならず、TOEICを活用し英語を勉強するという姿勢を身につけたい。		
授業概要	授業では、TOEICによく取り上げられるテーマを基にリスニング、リーディングの演習を行い、基礎的な英語力の向上を図るとともに、TOEIC各パートのスコアアップを目指す。 英単語力の強化、リスニング演習、リーディング演習を行い、指定のテキストにも毎時間取り組み、答え合わせや説明を行う。 また、指定テキストの進度等を考慮しながら、演習、小テスト、課題提出に取り組む。 【SDGs: 4, 5, 9】		
授業計画	① オリエンテーション TOEICまたは英検の模擬問題等でウォームアップを行う。 ② Unit 1 ③ Unit 2 ④ Unit 3 ⑤ Unit 4 ⑥ Unit 5 ⑦ 演習 ⑧ Unit 6 ⑨ Unit 7 ⑩ Unit 8 ⑪ 演習 ⑫ Unit 9 ⑬ Unit 10 ⑭ Unit 11 ⑮ まとめ ⑯ (課題提出等)		
予復習等	各自学習した教材の復習を行い、土台の積み上げをすること。 また、インターネット等を利用し、いろいろな英語題材に触れ、インプットを増やすこと。		
評価方法	授業参加状況（課題の提出を含む場合がある）40% 小テスト等 60%		
履修条件			
教科書	・TOEIC® L&R TESTへの総合アプローチ -Intermediate- (成美堂) ・学校語彙で学ぶTOEIC®テスト【単語集】 -改訂新版- THE 1500 CORE VOCABULARY FOR THE TOEIC® TEST -Revised Edition- (成美堂)		
参考書			

科目名	初級中国語 I（Aクラス） Basic Chinese I	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	王 張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本授業は中国語初心者向けの授業であり、初めての中国語学習に楽しく慣れ親んでもらうことを目的とする。中国語の発音は日本語に無い独特な声調があるため、まずはピンインや声調の習得に努め、中国語の発音に慣れることが望ましい。本授業の中で中国語の発音、基礎的な文法知識を学習しながら、中国の文化や言語表現の習慣に触れていく。 一年間を通して「初級中国語I、II」を履修し、中国語検定資格準4級または4級の取得を目指す。		
授業概要	【担当者の実務経験：トヨタ自動車関連企業に10年間勤務（海外外向経験あり）。その後、中国国内テーマパークの水族館部門にて、副館長を5年間勤め、運営に携わった】 テキストに沿って、発音練習や文法の説明、リスニングを中心に行う中で、受講者に発音の実践や意見を求める場面がある。受講者が中国語学習で難しいと感じる点は、バイリンガルの実務経験者として、時間をかけて説明する。前期の初級中国語Iで基礎を固め、初級中国語II、中国語（文法・読解）、中国系特論Iを履修することで、さらなる上達が期待できる。 【SDGs：10, 16】		
授業計画	① 中国語の勉強方法、中国語検定試験の説明 ② 単母音、複合母音 ③ 子音、声調 ④ 変調の規則 ⑤ 第1課 お名前は？ ⑥ 第2課 これは私のパソコンです。 ⑦ 第3課 ここは寒いです。 ⑧ 第4課 7時に起きます。 ⑨ 第5課 学校まで遠いです。 ⑩ 第6課 何コマありますか。 ⑪ 第7課 おいくつですか。 ⑫ 第8課 図書館で勉強します。 ⑬ 第9課 どこへ行きましたか。 ⑭ 第10課 パンを食べたいです。 ⑮ 復習 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】各課の文法を予習して、その説明を理解しておくこと。 【復習】前回習った内容を復習し、毎回授業の最後にリスニングの練習を行う		
評価方法	出席状況30%、小テスト30%、定期試験40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	『楽しく学ぼう やさしい中国語（基礎編）』郁文堂出版社。著者：張慧娟、王武雲、朱藝 2,500+税		
参考書	なし		

科目名	初級中国語Ⅰ（Ｂクラス） Basic ChineseⅠ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（１年前期）	科目区分	演習
担当者	王 武云	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	外国語の学習は、単に情報獲得の道具を得るためだけでなく、その言語の背景にある人々の文化の理解も重要である。従って本授業は中国語の発音、基礎的な文法知識を身につけて、中国の文化や習慣に触れながら、簡単な会話ができることを目指す。		
授業概要	テキストに沿って、発音練習、文法の説明、練習問題の解答。授業ではなるべく多くの学生に当てて、中国語の発音練習と会話練習をする。毎回、前回の授業を復習する意味で、授業の最初に小テストを行うから、小テストの準備も授業の一部と考えてください。 【SDGs：4, 16】		
授業計画	① 中国語とは？単母音、複合母音 ② 子音、声調 ③ 変調の規則 ④ 第1課 お名前は？ ⑤ 第2課 これは私のパソコンです ⑥ 第3課 ここは寒いです ⑦ 第4課 7時に起きます ⑧ 第5課 学校まで遠いです ⑨ 第6課 何コマがありますか ⑩ 第7課 今年は何歳ですか ⑪ 第8課 図書館で勉強します ⑫ 第9課 どこへ行きましたか ⑬ 第10課 パンを食べたいです ⑭ 復習 ⑮ 中国語の発表会 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】授業前習う予定の内容を目を通して、その説明を理解しておくこと。 【復習】小テストの準備をしておくこと。		
評価方法	出席状況20%、小テスト40%、試験40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	『楽しく学ぼう やさしい中国語（基礎編）』郁文堂出版社。著者：張慧娟、王武雲、朱藝 2,500+税		
参考書	授業の中で随時紹介する		

科目名	初級韓国語Ⅰ Basic KoreanⅠ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（１年前期）	科目区分	演習
担当者	孫 ミギョン	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	韓国語の入門クラスとして韓国語の文字であるハングルに慣れながら、ことばの基礎を学ぶ。前半では韓国語の文字とその発音を十分練習し、後半では、基礎文法と語彙を中心に表現練習をする。 この授業は、①ハングル文字を発音でき、書くことができる。②簡単な自己紹介ができるようになる。③基本的な挨拶でコミュニケーションがとれることを目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：あり】 韓国語の文字（ハングル）の読み方、書き方だけでなく、言語にまつわる韓国文化についても理解できるように授業を進める。前半では文字と発音の学習に力点をおき、後半では助詞の使い方や叙述・疑問・否定・尊敬などの用言活用を中心に学習する。授業には主体性と積極性を発揮して臨んでほしい。 【SDGs：4, 9, 17】		
授業計画	① ガイダンス（授業紹介） ② 基本母音・合成母音 ③ 基本子音・パッチム（終声） ④ 連音化 ⑤ こんにちは。私は日本人です。 ⑥ これは何ですか。 ⑦ 学校はどこにありますか。 ⑧ K-POPで習う韓国語表現① ⑨ 午後は何をしますか。 ⑩ 誕生日はいつですか。 ⑪ どこにお住まいですか。 ⑫ どんな映画が好きですか。 ⑬ いくらですか。 ⑭ 何時に来ましたか。 ⑮ K-POPで習う韓国語表現② ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】各課ごとに新出語彙を予め予習しておくこと。 【復習】小テストがあるので必ず復習しておくこと。		
評価方法	提出物及び授業態度20%、小テスト30%、定期試験50%（授業回数の3分の1をこえて欠席した場合は評価の対象にならない）		
履修条件	なし		
教科書	『教養韓国語 初級』、金智賢著、朝日出版社		
参考書	なし		

科目名	日本語表現法 I Japanese Composition I	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	村中 菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	日本語を世界のなかの一言語としてとらえ、長所や弱点を客観的に知ることで、日常生活やビジネスの場で、読み手に伝わりやすい書きことばの表現を自分で考え、作文に応用できるようになることを目的とする。さまざまな種類の文章に触れることにより、その文章を書く目的は何か、目的に応じて求められる内容は何かを的確に判断し、場面に応じて適切な書きことばの表現を選択できるようになることを到達目標とする。		
授業概要	ことばの4機能である「読む」・「書く」・「話す」・「聞く」のうち、本講義では「書く」ことを中心に扱う。まず日本語の特質を客観的にとらえることから始め、それを念頭に、内容を読み手に適切に伝えるための語句の選択、自然な語順、待遇表現と敬語、文章のさまざまな型を学ぶ。テキスト各節の練習問題および付録のワークブックを用い、実用文書としての案内文や型に依りつつ個性を発揮できる手紙文の作成のほか、文章の要約の練習も取り入れながら進める。課題レポートを作成するためのポイントやタイトルの付け方、内容の組み立て方も実践的に学ぶ。 【SDGs：4, 10】		
授業計画	① ガイダンス、日本語の書きことばの特質（1） ② 日本語の書きことばの特質（2） ③ 日本語の書きことばの特質（3） ④ 語句の選択、自然な語順、表記 ⑤ 待遇表現と敬語（1） ⑥ 待遇表現と敬語（2） ⑦ 待遇表現と敬語（3）、文章を書く際の留意点 ⑧ 文章の種類と型、求められる内容 ⑨ 案内文の作成 ⑩ 手紙文の作成（1） ⑪ 手紙文の作成（2） ⑫ 手紙文発表・講評 ⑬ 文章の要約（1） ⑭ 文章の要約（2） ⑮ 文章の要約（3） ⑯ 定期試験		
予復習等	毎回、その日に学んだテキストを見直しておくこと		
評価方法	出席状況・受講態度40%、演習・発表への取り組み30%、定期試験30%		
履修条件	なし		
教科書	プリントを配布する		
参考書	必要に応じてプリントを配布する		

科目名	フランス語 I French I	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	小田 麻里名	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	Bonjour! と笑顔であいさつできることが一番大切です。SDGsの17の目標に関わるフランスのトピックを紹介していきます。日本と比較しながら、岐阜県についての理解を深める教材で、様々なフランス語単語や表現を覚えていきましょう。在学中にフランス語検定に合格できるように文法を分かりやすく解説します。楽しくフランス語を学びながら日本のゆたかさを考察する機会にもなるような、生きたフランス語を身につけていきましょう。		
授業概要	毎回の授業が、新しい“できる”がふえていくレッスン内容です。フランス語の単語は実は日本の外来語由来にとっても多く、みなさんにとって身近な単語がたくさんあります。日本人は昔からフランスで多くのことを学び、そしてフランスからもたくさんの人々が日本を学ぼうと来日しています。みなさんの表現力が向上する例文を用意して“伝える・伝わる”フランス語をいっしょに身につけていきましょう。練習問題を通して文法力もアップします。 Après la pluie, le beau temps. 最初は難しいフランス語も必ずできるようになります。 【SDGs：2, 3, 5, 8, 11, 12, 13, 14, 15, 17】		
授業計画	① 辞書の使い方、発音、男性形と女性形、形容詞、学習方法のガイダンス ② 動詞の活用と冠詞について ③ 指示形容詞と日常のあいさつ表現 [SDGs：⑤⑧⑩トピックス紹介] ④ 前置詞 [SDGs：③⑭⑮トピックス紹介] ⑤ 過去形 [SDGs：②⑫⑬トピックス紹介] ⑥ フランス語検定試験問題を使って、冠詞・前置詞の復習 ⑦ 自己紹介 数字 1～50 ⑧ 他者紹介 数字 50～100 ⑨ フランス語検定試験問題を使って、動詞の活用の復習 ⑩ 基本的な日常会話練習① ⑪ 岐阜県の郷土料理をフランス語で紹介してみましょう ⑫ 岐阜県の観光地をフランス語で紹介してみましょう ⑬ フランス語検定試験問題5級レベルにトライ（詳しい解説します） ⑭ [SDGs⑩] 大切にしていきたい日本のゆたかさをみんなでフランス語で書いてまとめて ⑮ フランス語 I のまとめ ⑯ 定期試験		
予復習等	はじめての外国語の辞書を使いますので、辞書に慣れるためにもこまめに調べましょう。教科書には発音をカタカナでふらない様にするため、ノートに本文をうつしておきましょう。 毎回予習30分 復習30分 音声練習30分		
評価方法	出席状況及び授業態度：25% 小テスト：15% 定期試験：60%		
履修条件	なし		
教科書	「オン・デマール」 古賀健太郎 駿河台出版社		
参考書	ベーシッククラウン仏和・和仏辞典がいいと思っていますが、すでに家にある場合はその仏和辞典（紙の辞書）を。		

科目名	韓国文化論 Korean Cultural Studies	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	講義
担当者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	朝鮮半島の歴史について理解することを目的とする。具体的には、学生が朝鮮半島の歴史の基礎的知識を習得し、朝鮮半島での歴史の変遷、各時代の特徴、各時代の王朝と中国大陸や日本との関係が説明できるようになることを目標とする。さらには、隣国の歴史を理解することが日本と朝鮮半島との関係について理解を深めることにつながることを期待される。		
授業概要	最初に朝鮮半島の地理の概要について学ぶ。次に、古代から近代まで朝鮮半島の各時代、各王朝の特徴を学ぶ。その際、中国大陸の各王朝や日本との関係を重視する。続いて、日本による植民地統治とその後の南北朝鮮の分断について学ぶ。この授業は隔週で行なうので、授業が開講される日に注意すること。全8回の授業であり、回数の少ない授業なので予習復習に努めることが授業の内容を理解するために大切である。 【SDGs : 10, 16】		
授業計画	① 地理 ② 古朝鮮と漢四郡 ③ 高句麗と三韓 ④ 統一新羅と渤海 ⑤ 高麗 ⑥ 朝鮮 ⑦ 大韓帝国と日韓併合 ⑧ 大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国 ⑨ 定期試験		
予復習等	配布されたプリントを整理し、次の時間に使用するプリントの内容を確認しておくこと。授業後はノート整理に努めること。		
評価方法	レポート50%、定期試験50%		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配付する。		
参考書	『朝鮮を知る事典』／著：伊藤亜人ほか／出版：平凡社		

科目名	ベーシックライティング Basic Writing	単位数	1
		必選区分	英語領域選択者には必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期） [岐阜学関連科目]	科目区分	演習
担当者	大澤 聡子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本授業では、英語らしい英文を書くための基礎力を身につけることを目的とする。英語と日本語は文法や語彙が異なることはもちろんだが、日本語の発想に基づいて単に、英単語を英語の文法に当てはめるだけでは英語らしい表現にはならない。英語らしい英文を書く基礎を学修するうえで、日本語とのズレや相違に気づき、「英語的な発想」を理解しすることを到達目標とする。		
授業概要	日本語の発想から脱して英語の発想で英文を書く基礎力を身につけるため、まずは日本人が間違えやすい文法事項について、例文と練習問題をとおして学修する。練習問題では英文の正誤を判断する問題から順に、短い日本語を英訳する問題へと段階的に進め、英語モードの基礎力を養う。さらに、学修した英語的発想を活かし、より情報量のある英文を書くため、単文から重文、複文というより複雑な文を書く練習へ発展させる。 【SDGs : 4】		
授業計画	① ガイダンス ② 主語 ③ 動詞 ④ 形容詞（1） ⑤ 形容詞（2） ⑥ 副詞 ⑦ 助動詞 ⑧ 時制（1） ⑨ 時制（2） ⑩ 接続詞 ⑪ 単文 ⑫ 重文 ⑬ 複文（1） ⑭ 複文（2） ⑮ カンマの使い方 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】各セクションの練習問題 【復習】重要項目をまとめる		
評価方法	出席状況・授業態度20%、課題・小テスト：30%、定期試験50%		
履修条件	「英語領域」を選択する学生にとっては必修科目		
教科書	『英語モードが身につくライティング』/著者：大井恭子 伊藤文彦/出版社：研究者		
参考書	なし		

科目名	日本文化論 Japanese Cultural Studies	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	講義
担当者	村中 菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義では、日本人の精神文化の特徴を学ぶことで、我々の最も身近にあって一生付いて回る「心」の側面から日本人の特徴を客観的に理解することを目的とする。これによって自己評価を高め、自分に求められるものは何かを考えて自ら行動に移してみることで、日常生活や社会生活のなかで抱える悩みや生きづらさに向き合い、ひとりひとりがよりよい生き方を模索する方法を見つけることを到達目標とする。同時に、自分を知ることによって他者を理解し、よりよい人間関係の構築や視野拡大の契機を見つけることを到達目標とする。		
授業概要	日本人の精神文化を切り口に日本文化について考える。日本人のものの考え方の特徴を文化的側面から自覚することは、今後のよりよい生き方へとつながる作業である。具体的には、日本人の精神文化の代表的な特徴として「もののあはれ」「無常」「義理と人情」「粋」について、主に日本文学の立場から私たちの思考の型（癖）を認識する。「もののあはれ」では『源氏物語』、「無常」では主に『方丈記』および『徒然草』から、「義理と人情」では近松門左衛門の浄瑠璃作品、「粋」では九鬼周造『粋の構造』の考えを基本に近松作品を取り入れ、日本人の精神文化の魅力および改善点を考え、よりよい生き方を提案する。 【SDGs : 4, 10】		
授業計画	① ガイダンス、日本人の精神文化の特徴①「もののあはれ」（1） ② 日本人の精神文化の特徴①「もののあはれ」（2） ③ 日本人の精神文化の特徴①「もののあはれ」（3） ④ 日本人の精神文化の特徴①「もののあはれ」（4） ⑤ 日本人の精神文化の特徴②「無常」（1） ⑥ 日本人の精神文化の特徴②「無常」（2） ⑦ 日本人の精神文化の特徴②「無常」（3） ⑧ 日本人の精神文化の特徴②「無常」（4） ⑨ 日本人の精神文化の特徴③「義理と人情」（1） ⑩ 日本人の精神文化の特徴③「義理と人情」（2） ⑪ 日本人の精神文化の特徴③「義理と人情」（3） ⑫ 日本人の精神文化の特徴③「義理と人情」（4） ⑬ 日本人の精神文化の特徴④「粋」（1） ⑭ 日本人の精神文化の特徴④「粋」（2） ⑮ 日本人の精神文化の特徴④「粋」（3） ⑯ 定期試験		
予復習等	毎回、その日に学んだテキストを見直しておくこと		
評価方法	【自学科生の場合】 出席状況・受講態度40%、授業時に書いてもらうメモ20%、定期試験40%		
履修条件	なし		
教科書	プリントを配布する		
参考書	必要に応じて配布プリント、映像教材を用いる		

科目名	英語コミュニケーションⅡ English Communication Ⅱ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	杉浦 エレナ	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	The objectives of this course are for students to develop practical communication skills for everyday English conversations. To this end the course will focus on building up confidence in English abilities through scaffolded listening and speaking activities. Students will also learn about American and British customs and culture in order to introduce a more international outlook.		
授業概要	【担当者の実務経験：日本の文化になじみのない英会話教師をサポートしてきた職務経験を活用し、コミュニケーションをとる中で日本と外国の文化的なギャップへの実際の経験に基づく対処法を身につけます。】 The course will review speaking activities familiar to the students such as introductions, family life and hobbies before introducing more challenging communication activities such as asking for information, telling a story and discussing problems. 【SDGs : 4】		
授業計画	① Orientation. Introduction and ice breaker activities. ② Class album. Simple information exchange. Polite, impolite questions. ③ Favorite photos. Describing family and friends. Follow up questions. ④ Personal goals. Describing future goals. Asking for advice. ⑤ Believe it or not. Telling a story. Reacting with interest. ⑥ Where I grew up. Using the past tense and `used to`. ⑦ Bargain shopper. Shopping expressions and bargaining for goods. ⑧ Review and mid term speaking assessment. ⑨ The perfect gift. Japanese, American and UK gift giving customs. ⑩ Party planner. Holidays in Japan, the US and the UK. Invitations. ⑪ Music profile. Likes, dislikes and genres of music. Reported speech. ⑫ Style makeover. Describing appearance and clothing. Giving advice. ⑬ Honesty. Telling stories. Asking hypothetical questions. ⑭ Making things better. School problems. Using `too` and `(not) enough`. ⑮ Review and speaking assessment. ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 Weekly vocabulary lists. 【復習】 Speaking assessment 1 and 2.		
評価方法	Week 8 speaking assessment 1, 20%. Week 15 speaking assessment 2, 20%. Participation, 10%. End of term examination, 50%.		
履修条件	なし		
教科書	Active Skills for Communication Book 2. HEINLE CENGAGE learning. Sandy, Kelly.		
参考書	なし		

科目名	初級中国語Ⅱ（Aクラス） Basic Chinese II	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	王 張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本授業は中国語初心者向けの授業であり、初めての中国語学習に楽しく慣れ親しんでもらうことを目的とする。中国語の発音は日本語に無い独特な声調があるため、まずはピンインや声調の習得に努め、中国語の発音に慣れることが望ましい。本授業の中で中国語の発音、基礎的な文法知識を学習しながら、中国の文化や言語表現の習慣に触れていく。一年間を通して「初級中国語I、II」を履修し、中国語検定資格準4級または4級の取得を目指す。		
授業概要	【担当者の実務経験：トヨタ自動車関連企業に10年間勤務（海外外向経験あり）。その後、中国国内テーマパークの水族館部門にて、副館長を5年間勤め、運営に携わった】 テキストに沿って、発音練習や文法の説明、リスニングを中心に行う中で、受講者に発音の実践や意見を求める場面がある。受講者が中国語学習で難しいと感じる点は、バイリンガルの実務経験者として、時間をかけて説明する。前期の初級中国語Ⅰで基礎を固め、初級中国語Ⅱ、中国語（文法・読解）、中国系特論Ⅰを履修することで、さらなる上達が期待できる。 【SDGs：10, 16】		
授業計画	① 前期の復習 ② 第11課 母より背が高いです。 ③ 第12課 中国へ行ったことがあります。 ④ 第13課 手紙を書いています。 ⑤ 第14課 いつ来たのですか。 ⑥ 第15課 英語ができます。 ⑦ 第16課 15課を学び終わりました。 ⑧ 第17課 母が送ってくれました。 ⑨ 第18課 中国語を聞いて分かります。 ⑩ 第19課 走るのが速いです。 ⑪ 第20課 彼はフランス語を教えています。 ⑫ 第21課 本をたくさん読んでください。 ⑬ 第22課 中国へ帰ります。 ⑭ 復習 ⑮ 中国語の合同発表会 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】各課の文法を予習して、その説明を理解しておくこと。 【復習】前回習った内容を復習し、毎回授業の最後にリスニングの練習を行う		
評価方法	出席状況30%、小テスト30%、定期試験40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	前期使った教科書の後半を引き続き使用する。『楽しく学ぼう やさしい中国語（基礎編）』 都文堂出版社。著者：張慧娟、王武雲、朱藝 2,500+税		
参考書	なし		

科目名	初級中国語Ⅱ（Bクラス） Basic Chinese II	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	王 武云	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	前期で学習した中国語の基礎の上に、中国語の基本的な表現力を向上させる。後期は会話に重きを置いて進めていくが、基本的文法や文型を理解したうえで、初級レベルの中国語を話すことができるようになることを目指す。		
授業概要	前期と同じように、毎回、前回の授業で学習した本文について的小テストをする。少しずつ中国語の会話ができるようになってきて楽しくなるから、前期よりさらに頑張ってもらいたい。 【SDGs：4, 16】		
授業計画	① 前期の復習 ② 第11課 母より背が高いです ③ 第12課 中国へ行ったことがあります ④ 第13課 手紙を書いています ⑤ 第14課 いつ来たのですか ⑥ 第15課 英語ができます ⑦ 第16課 第15課を学び終わりました ⑧ 第17課 母は日常用品を送ってくれました ⑨ 第18課 中国語を聞いて分かります ⑩ 第19課 走るのが速いです ⑪ 第20課 彼はフランス語を教えています ⑫ 第21課 本を多く読むように ⑬ 第22課 彼はもうすぐ中国へ帰ります ⑭ 復習 ⑮ 中国語の発表会 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】授業前習う予定の内容を目を通して、その説明を理解しておくこと。 【復習】小テストの準備をしておくこと。		
評価方法	出席状況20%、小テスト40%、試験40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	前期使った教科書の後半を引き続き使用する		
参考書	授業の中で随時紹介する		

科目名	初級韓国語Ⅱ Basic Korean Ⅱ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	孫 ミギョン	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	この授業は、韓国語の文字であるハングルの読み書きと簡単な韓国語会話の習得を目標とする。「初級韓国語（Ⅰ）」の学習の上に、実践的な韓国語能力を身につけるために必要な「読む、聞く、書く、話す」の四つの技能に関する基礎をさらに習得する。 ハングルを確実に読むことができ、書くことができるようになること、さらに韓国語の簡単な文章が発話できるようになることを目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：公的機関等での通訳、翻訳の経験あり】 韓国語の文字（ハングル）の読み方、書き方だけではなく、言語にまつわる韓国文化についても理解できるように授業を進める。前半では文字と発音の学習に力点を置き、後半では助詞の使い方や叙述・疑問・否定・尊敬などの用言活用を中心に学習する。授業には主体性と積極性を発揮して臨んでほしい。 【SDGs：4, 9, 17】		
授業計画	① ガイダンス（授業紹介）第1課 저는 스키 켜타입니다 ② 第2課 저것은 교과서가 아닙니다 第3課 오후에 수업이 있습니까? ③ 第4課 어디에 갑니까? ④ 第5課 한국어는 어렵지 않습니다 ⑤ 第6課 6월 10일입니다 ⑥ 第7課 10시 20분입니다 ⑦ 第8課 라면이 아주 맛있어요 ⑧ K-POPで習う韓国語表現 ⑨ 第9課 수업이 끝나면 어디에 가요? ⑩ 第10課 친구는 한국 사람이에요? ⑪ 第11課 집이 좁아서 못 키워요 ⑫ 第12課 학교까지 안 멀니까? ⑬ 第13課 켜타씨는 요리할 수 있어요? ⑭ 第14課 선생님 지금 뭐하세요? ⑮ 第15課 후배랑 같이 뮤지컬을 봤습니다 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】各課ごとに新出語彙を予め予習しておくこと。 【復習】小テストがあるので必ず復習しておくこと。		
評価方法	提出物及び授業態度20%、小テスト30%、定期試験50%(授業回数の3分の1をこえて欠席した場合は評価の対象にならない)		
履修条件	「初級韓国語Ⅰ」の単位を履修していること。		
教科書	『チンチャ! チョアヘヨ 韓国語Ⅰ』、金庚芬 / 丁仁京、朝日出版社		
参考書	なし		

科目名	日本語表現法Ⅱ Japanese Composition Ⅱ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	村中 菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	コミュニケーションにおける話しことばの重要性を認識し、日常生活やビジネスの場において、相手や場面に応じた適切なことば遣いを選択できるようになること、話し手の気持ちを含み取った話の聞き方、相づちの打ち方などができるようになることを目的とする。特に、適切な敬語の使い方を中心に丁寧語・改まり語などを実践的に学ぶことで、自分の置かれたさまざまな場面や状況、相手に応じた自然で好印象なことば遣いができるようになることを到達目標とする。		
授業概要	ことばの4機能である「読む」・「書く」・「話す」・「聞く」のうち、本講義では「話す」・「聞く」ことを中心に扱う。特に社会人として必須の敬語の習得に力を入れ、ロールプレイなど実践的な学習方法を取り入れ、自然に適切なことば遣いが身につくようにする。さらに、面接試験などの緊張した場面に身を置いた際にも、自分の言いたいことを的確に伝えることができるよう、話の構成技術も習得する。人前で話すことが苦手な方も自身がつき、より積極的になれるよう指導する。また「聞く」ことは「話す」以上に重要であるため、技術だけでなく、話し手の内面を思いやる表現方法についても学ぶ。 【SDGs：4, 10】		
授業計画	① ガイダンス、コミュニケーション能力の確認 ② コミュニケーションの中のことばの重要性を再認識する ③ あいさつ表現 ④ 導入ロールプレイ ⑤ 発音・発声、語尾・話しくせ ⑥ 発話内容のまとめ方、明確な伝え方 ⑦ 敬語の必要性、敬語の種類 ⑧ 敬語のロールプレイ（1） ⑨ 敬語のロールプレイ（2） ⑩ 敬語のロールプレイ（3）発表および講評 ⑪ 話の構成技術を学ぶ（1） ⑫ 話の構成技術を学ぶ（2） ⑬ 話の構成技術を学ぶ（3）成果発表 ⑭ 効果的な話の聞き方（1） ⑮ 効果的な話の聞き方（2） ⑯ 定期試験		
予復習等	毎回、その日に学んだテキストを見直しておくこと		
評価方法	出席状況・受講態度40%、演習・発表への取り組み30%、定期試験30%		
履修条件	なし		
教科書	『コミュニケーション技法』／編著：プレゼンテーション学研究会／出版：ウィネット		
参考書	必要に応じてプリントを配布する		

科目名	フランス語Ⅱ French II	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	小田 麻里名	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	Bonjour ça Va?・・・とフランス語であいさつしたり、笑顔で会話ができる自分をイメージできる授業になるように、みなさんの質問にもていねいに答えていきます。1年目を終わる頃にフランス語検定試験5級・4級にトライできる文法力と表現力を身につけられる内容です。みなさんの日常生活をフランス語で説明できる単語力のために、作文練習もオリジナルで作りました。楽しくハッピーな気持ちではじめてのフランス語学習を進められるように毎回工夫していきます。		
授業概要	現在形、未来形、過去形を全て学ぶことで、表現力は確実にアップしていきます。発音も繰り返しの練習でより自然となります。初級文法の仕上げとしてのフランス語作文。初級会話のまとめとしてのおかいもの表現や自己紹介文の習得。On ne fait pas d'omelette sans casser des œufs. “たまごをわらないとオムレツはつくれない”ように、みなさんの勇気のためたまごを育てて、おいしいフランス語会話オムレツをいっしょに作っていききたいと思っています。たくさんお話していきましょう。 【SDGs：4, 9】		
授業計画	① フランス語Ⅰの復習 ② フランス語のさまざまな疑問表現と否定表現 [SDGs：⑨トピックス紹介] ③ 中性代名詞 [SDGs：④トピックス紹介] ④ フランス語の時制① 現在形 ⑤ フランス語の時制② 過去形 ⑥ フランス語の時制③ 未来形 ⑦ フランス語検定試験問題を使って、時制の復習 ⑧ フランス語検定試験問題を使って、形容詞、副詞の復習 ⑨ 比較級、最上級 ⑩ フランス語を使ったゲームを作って遊びましょう ⑪ 日記をフランス語で書いてみましょう ⑫ 条件法、受動態、ジェロンディフ ⑬ フランス語検定試験問題4級レベルにトライ + 詳しい解説 ⑭ 【SDGs⑨】 岐阜県の産業、文化、伝統をフランス語で紹介してみましょう ⑮ フランス語Ⅱのまとめ ⑯ 定期試験		
予復習等	フランス語に少し慣れてきた頃です。なので辞書をさらに活用して熟語を覚えていきましょう。 予習15分 単語・熟語暗記15分 復習20分 音声確認15分 音読15分		
評価方法	出席状況及び授業態度：25% 小テスト：15% 定期試験：60%		
履修条件	なし		
教科書	「オン・デマール」 古賀健太郎 駿河台出版社		
参考書	ベーシッククラウン仏和・和仏辞典がいいと思いますが、すでに家にある場合はその仏和辞典（紙の辞書を）。		

科目名	サステナブル社会論 Studies in Sustainable Societies	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	講義
担当者	荒木 隆人	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	「サステナブル(sustainable)社会」とは、地球の環境、平和や公正が次の世代にも保たれ、継承されていくような社会を意味する。すなわち、それは、人類がこの地球上で暮らし続けていくために形成していかなければならない社会のことである。2015年には、国連総会において、このサステナブルな社会を実現するための具体的な目標として、持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals) が提唱された。本授業の目的は、このSDGsの具体的な目標を学ぶことで、私たちが目指すべきサステナブル社会についての理解を深めることである。		
授業概要	本講義では、持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)が掲げる17の目標と169のターゲットについて詳細に解説する。各回の講義において、SDGsが掲げる具体的な目標とターゲットの内容を理解することを通じて、現在の世界が目指すべきサステナブル社会の全体像を明らかにする。 【SDGs：1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17】		
授業計画	① ガイダンス ② 目標1「貧困をなくそう」目標2「飢餓をゼロに」 ③ 目標3「すべての人に健康と福祉を」 ④ 目標4「質の高い教育をみんなに」 ⑤ 目標5「ジェンダー平等を実現しよう」 ⑥ 目標6「安全な水とトイレを世界中に」 ⑦ 目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」 ⑧ 目標8「働きがいも経済成長も」目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」 ⑨ 目標10「人や国の不平等をなくそう」 ⑩ 目標11「住み続けられるまちづくりを」目標12「つくる責任 つかう責任」 ⑪ 目標13「気候変動に具体的な対策を」 ⑫ 目標14「海の豊かさをまもろう」 ⑬ 目標15「陸の豊かさを守ろう」 ⑭ 目標16「平和と公正をすべての人に」 ⑮ 目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」 ⑯ まとめ		
予復習等	【予習】講義内で紹介する教科書等で各回の講義で扱う内容について予習をすること 【復習】講義で配布された資料を理解した上で、一層理解を深めるために参考書等で調べる		
評価方法	小課題20%、期末レポート80%		
履修条件	なし		
教科書	『SDGs（持続可能な開発目標）』著・蟹江憲史／出版：中央公論新社 ISBN 978-4121026040		
参考書	講義中において適宜指示する。		

科目名	グローバリゼーション論 Globalization Studies	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期） 【他学科専門科目】 【岐阜学関連科目】	科目区分	講義
担当者	藤田 怜史	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>本講義の目的は、グローバリゼーションが何を意味し、それによって世界がどう変わった（変わっている）かを理解することを目的とする。また、グローバルな視点を涵養し、それによって異文化への共感力を高めることを目的とする。具体的な到達目標は以下のとおり。</p> <p>1：受講生は、グローバリゼーションという現象の意味を理解できる。 2：受講生は、グローバリゼーションがもたらした好影響と悪影響を考察できる。 3：受講生は、グローバルな視点を身につけ、異文化への共感力を高めることができる。</p>		
授業概要	<p>グローバリゼーションとは、ヒト・モノ・カネが国境を越えてより自由に移動できるようになり、世界がひとつにつながりつつある現象を意味する。本講義では、世界がいかにつながっているかという問題を歴史的に振り返る。それに加えて、諸外国の状況について見ることで、世界はひとつにつながりつつも、多様性を内包していることを確認し、またグローバリゼーションがもたらしたさまざまな影響を検討する。最後に、日本や岐阜というローカルな地域の中に、「世界」がどう存在しているか、またその逆についても見てみたい。なお、本講義は受講生にプレゼン（個人ないしグループ。受講者の数による）を多く行ってもらふ。積極的な参加、意見交換を期待する。</p> <p>【SDGs：4, 5, 10, 11, 16, 17】 【岐阜学関連の授業回：⑫, ⑬】</p>		
授業計画	<p>① イントロダクション：グローバリゼーションってなに？ ② 世界はつながっている（1）：古代の世界の人・モノ・金の移動 ③ 世界はつながっている（2）：世界をめぐる食べ物 ④ 世界各地を見てみよう（1）：アメリカ合衆国 ⑤ 世界各地を見てみよう（2）：タイ文化圏における価値観と地域差 ⑥ 世界各地を見てみよう（2）：タイ文化圏における価値観と地域差 ⑦ 世界各地を見てみよう（3）：七大陸の文化と環境 ⑧ プレゼンⅠ：世界中をめぐるヒト・モノ・カネ ⑨ プレゼンⅡ：旅行計画を立ててみよう ⑩ グローバリゼーションの諸問題（1）：人とモノの移動の活性化 ⑪ グローバリゼーションの諸問題（2）：文化の均質化と格差の拡大・固定化 ⑫ 日本における世界・世界における日本（1） ⑬ 日本における世界・世界における日本（2） ⑭ プレゼンⅢ：グローバリゼーションの利点と欠点 ⑮ プレゼンⅣ：岐阜（故郷）を世界に発信しよう ⑯ 定期試験</p>		
予復習等	<p>予習：世界全体のニュースに関心を持ち、可能な限り触れておく。 復習：講義で扱った話題について自分で調査を行い、プレゼンの準備をする。</p>		
評価方法	<p>【自学科学生の場合】出席状況・授業態度（30%）、プレゼン（30%）、期末レポート（40%） 【他学科学生の場合】出席状況・授業態度（30%）、プレゼン（30%）、期末レポート（40%）</p>		
履修条件	条件は指定しないが、対面のみでの開講とする。		
教科書	なし。資料を配布する。		
参考書	なし。適宜紹介する。		

科目名	English Conversation English Conversation	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期） 【岐阜学関連科目】	科目区分	演習
担当者	コットン ランダル	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>This course aims to help students move beyond basic English expressions and move toward using more natural, native-like speaking skills. Some of these skills include speaking for longer turns, having conversations that use few questions, and increasing knowledge of natural expressions. Students will also learn natural reactions to use as they listen during conversations -- an important function of listening as an active participant. Speaking tests will be held twice during the semester so that students can show how well they have mastered these skills.</p>		
授業概要	<p>Students will spend much time in class learning vocabulary and speaking with classmates about everyday life topics. Vocabulary quizzes will be given at the end of each unit. By the end of the course, if students work hard, they will be able to speak English more fluently, accurately, and with more complexity than they could at the beginning of the year.</p> <p>【SDGs：4, 17】 【岐阜学関連の授業回：⑥, ⑨】</p>		
授業計画	<p>① Unit 5 (Part 1): Talking about breaks ② Unit 5 (Part 2): Free time activities ③ Unit 5 (Part 3): Current & future hobbies ④ Quiz / Unit 7 (Part 1): Recent meals ⑤ Unit 7 (Part 2): Food likes & dislikes ⑥ Unit 7 (Part 3): Exotic foods & eating out ⑦ Quiz / Practice for Speaking Test #1 ⑧ Speaking Test #1 ⑨ Quiz / Unit 4 (Part 1): Travel experiences ⑩ Unit 4 (Part 2): Future travel ideas ⑪ Unit 4 (Part 3): Planning a trip ⑫ Quiz / Unit 8 (Part 1): Five years later ⑬ Unit 8 (Part 2): Discussing life issues ⑭ Unit 8 (Part 3): Dream jobs ⑮ Quiz / Practice for Speaking Test #2 ⑯ 定期試験 (Speaking Test #2)</p>		
予復習等	<p>【予習】 Study the textbook before coming to class each week. 【復習】 Review the lessons to better remember the material covered in class.</p>		
評価方法	Participation (20%); Vocabulary quizzes & homework (30%); Speaking tests (50%)		
履修条件	「英語コミュニケーションI」を受講をすること		
教科書	Conversations in Class (3E). Jerry Talandis Jr. and Bruno Vannieu. Alma Publishing, Kyoto. 2015.		
参考書	http://www.cic-multimedia.com/		

科目名	メディアイングリッシュ I Media English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	藤田 怜史	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	この授業はアメリカ合衆国の各都市に関する映像をとおして、総合的な英語能力に加えて異文化への関心と理解を深めることを目標とする。具体的な到達目標は以下のとおり。 1：受講生はリスニングやスピーキングを含めた総合的な英語能力を向上させることができる。 2：受講生は異文化の都市での生活や歴史に触れることで、国際的な視野を持ち、異文化に対する関心と理解を深めることができる。		
授業概要	本授業では、アメリカ合衆国の各都市について紹介する動画・音声資料を利用し、ネイティブの生きた英語に触れることで、リスニングやスピーキング能力を含めた総合的な英語能力を向上させ、異文化に対する関心と理解力を深めることを目的とする。海外の都市（教科書で扱ったものに限らない）の内容や感想についてまとめたエッセイを書き、それを受講者同士で読み合わせて英語表現や内容について論評する機会も設けたい。 ※使用教科書を変更する可能性がある。 【SDGs：4, 10, 16, 17】		
授業計画	① Guidance (self-introduction, etc) ② Unit 1 ③ Unit 2 ④ Unit 3 ⑤ Unit 4 ⑥ mid-term report or exam ⑦ unit 5 ⑧ unit 6 ⑨ unit 7 ⑩ unit 8 ⑪ mid-term report or exam ⑫ unit 9 ⑬ unit 10 ⑭ unit 11 ⑮ unit 12 ⑯ 定期試験（ないしレポート）		
予復習等	予習：指定されたユニットのテキストを読み、単語を辞書で調べておく 復習：聞き取りなどで聞き取れなかったフレーズを中心に繰り返し聞き、シャドーイングを行う		
評価方法	出席状況・授業態度（30%）、課題（20%）、定期試験（50%）		
履修条件	なし		
教科書	『American Vibes』／著：Todd Rucynski他／金星堂		
参考書	なし。適宜紹介する。		

科目名	パラグラフライティング Paragraph Writing	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期） [岐阜学関連科目]	科目区分	演習
担当者	大澤 聡子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本授業では、自分の考えや情報を分かりやすく、正確に伝えるための英文を書く基礎力を身につける。①英文ライティングの典型的なパターンを理解し、目的に応じた効果的な表現ができること、②英語の規則と構造を理解し、正確な英文が書けること、③まとまりのあるパラグラフが書けることの3つを到達目標とする。		
授業概要	本授業では4技能を使った練習をとおして段階的に、まとまりのある英文を論理構成にしたがって書けるようにする。目的別に書かれた英文を読み、それぞれの目的に応じた英文構成の典型的パターンをまず理解する。また例文から、説得力、論理性、一貫性、深みを文章に加味する表現を発見し、語彙と表現力を身につけ、与えられた目的に対して正確な英文で、効果的な論理展開をもつ英文を1つのパラグラフとして仕上げる。 【SDGs：4】 【岐阜学関連の授業回：⑦, ⑨】		
授業計画	① What is a Paragraph? パラグラフとは何か ② Narration 出来事を語る ③ Process 手順を説明する ④ Description of Feelings 感情を描写する ⑤ Description of People 人を描写する ⑥ Description of Places & Locations 場所を描写する(1) ⑦ Description of Places & Locations 場所を描写する(2) ⑧ Definition 人物や物事を定義する(1) ⑨ Definition 人物や物事を定義する(2) ⑩ Cause & Effect 原因と結果(1) ⑪ Cause & Effect 原因と結果(2) ⑫ Problems & Solutions 問題と解決策(1) ⑬ Problems & Solutions 問題と解決策(2) ⑭ Your Opinion—Agree 賛成意見を述べる ⑮ Your Opinion—Disagree 反対意見を述べる ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】テキストの授業範囲を読み込み、問題を解いておく。 【復習】重要項目をまとめる。課題を見直し、復習する。		
評価方法	出席状況・授業態度20%、課題40%、定期試験40%		
履修条件	なし		
教科書	Smart Writing /著：仲谷都 他/出版：成美堂		
参考書	なし		

科目名	インテンシブリーディング Intensive Reading	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	佐竹 直喜	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本授業の目的は、多くのリーディング演習を通し、英語インプット量を増やし、英語表現や単語力も強化することにある。比較的長い英語の文章を精確に読解でき、英字新聞等も自分で読みこなせる読解力をつける。		
授業概要	<p>①指定のテキストを使い、リーディング力、そしてそのために必要な英語表現力を高める。 ②サイトトランスレーション等を行い、より速い速度で英語を読むための練習をする。 ③文・段落・文章全体の構成についての理解を深め、ライティングにもつなげるための土台を作る。</p> <p>【SDGs : 1, 2, 10, 16】</p>		
授業計画	<p>① オリエンテーション ② Lesson 1 ③ Lesson 2 ④ Lesson 3 ⑤ Lesson 4 ⑥ Lesson 5 ⑦ Lesson 6 ⑧ Lesson 7 ⑨ Lesson 8 ⑩ Lesson 9 ⑪ Lesson 10 ⑫ Lesson 11 ⑬ Lesson 12 ⑭ Lesson 13 ⑮ まとめ、課題提出等</p>		
予復習等	各自学習した教材の復習を行い、土台の積み上げをすること。 また、インターネット等を利用し、いろいろな英語題材に触れ、インプットを増やすこと。		
評価方法	授業参加状況（課題の提出を含む場合がある）40%、 小テスト等 60%		
履修条件			
教科書	・リーディング・パス 2（改訂版）（南雲堂） ・必携英語表現集 Essential English Expressions（数研出版）		
参考書			

科目名	英語のしくみ I English Grammar I	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	大澤 聡子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	コミュニケーションの多くは「ことば」を媒介として行われる。したがって「ことば」を深く理解することがコミュニケーションの理解につながる。本授業では英文法の理解を通して英語コミュニケーション能力の向上につなげることを目的とする。特に、これまでに学修した英文法を単なる知識としてではなく、①コミュニケーションに使える文法として理解し、②英語の感覚を身につけることを目標とする。		
授業概要	<p>本授業では、英語学修者からコミュニケーションに「使える」実用的な文法書として定評のあるGrammar in Useを使用し、高校までの英文法を復習すると同時に、多くの実用的な用例を見ながら、自然な文脈や会話の中での使用法を理解する。テキストは平易な英語で解説され、練習問題も全て英語で書かれているものを使用するため、毎回の予習が求められる。授業ではテキストの文法解説に加え、英語という言葉の「本質的なしくみ」について、さらに掘り下げた解説を行う。</p> <p>【SDGs : 4】</p>		
授業計画	<p>① ガイダンス ② Present and Past (1) 現在形と過去形 ③ Present and Past (2) 現在形と過去形 ④ Present Perfect (1) 現在完了形 ⑤ Present Perfect (2) 現在完了形 ⑥ Present Perfect and Past 現在完了形と過去形 ⑦ Future (1) 未来表現 ⑧ Future (2) 未来表現 ⑨ Review ⑩ Modal Auxiliary (1) 法助動詞 ⑪ Modal Auxiliary (2) 法助動詞 ⑫ Subjunctive (1) 仮定法 ⑬ Subjunctive (2) 仮定法 ⑭ Subjunctive (3) 仮定法 ⑮ Review ⑯ 定期試験</p>		
予復習等	【予習】テキストの授業範囲を読み、疑問点をまとめておく。 【復習】重要事項をまとめる。		
評価方法	出席状況・授業態度30%、定期試験70%		
履修条件	なし		
教科書	Grammar in Use Intermediate / Raymond Murphy / Cambridge University Press		
参考書	授業で指示する。		

科目名	社会調査論 Theory and Methods of Social Research	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	王 武云	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	本講義では、社会調査のしくみや考え方、実施方法と実例について学び、良い調査とそうではない調査を的確に見分ける力を養うとともに、調査の方法やデータの解釈の仕方、結果の発表の仕方について基礎力を養成することを目的とする。本講義をおして、あるフィールドで課題を見つけその課題を探索するために必要な基礎力を養う。到達目標は、社会調査に関する基礎的知識を身につけるとともに、社会調査データを正しく評価・利用するための能力を身につける。		
授業概要	本講義では、社会調査のしくみや考え方、実施方法と実例について学ぶ。また、実際のデータを観察し、日本社会の変化や今後の動向について理解を深める。受講者は、社会調査の実際についての文献を読み、概要についてグループ発表を行う。その文献の元になった論文を概観し、社会調査の実際について理解する。また、アンケート調査やインタビュー調査、フィールドワークの実施方法について学び、良い調査とそうではない調査を的確に見分ける力を養うとともに、調査を企画・実施する基礎力をつける。グループ発表機会を設ける。 【SDGs：1, 3, 4, 5, 10, 17】 【岐阜学関連の授業回：⑬】		
授業計画	① ガイダンス、社会調査とは何か ② さまざまな社会調査1 ③ さまざまな社会調査2 ④ アンケート調査 ⑤ インタビュー調査 ⑥ 参与観察とフィールドワーク ⑦ データ収集と活用 ⑧ データ分析の実際 ⑨ 調査地点による分類（地域調査、全国調査、国際比較調査等） ⑩ 調査時点による分類（クロスセクション調査、継続調査、パネルサーベイ） ⑪ 調査報告書の作成法 ⑫ データから読み解く日本社会 ⑬ データから読み解く岐阜 ⑭ グループ発表 ⑮ グループ発表 ⑯ 定期試験		
予復習等	指定されたテキストの関連部分を読んでおく。		
評価方法	出席状況・授業態度 30%、グループ発表20%、期末試験50%		
履修条件	特になし		
教科書	『社会調査のしくみと考え方』原純輔著 放送大学叢書		
参考書	『最強の社会調査入門—これから質的調査をはじめるときのために』前田拓也ほか編 ナカニシヤ出版		

科目名	近現代の世界 The Contemporary World	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	藤田 怜史	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義では、今われわれが生きているとされる近代・現代という時代が、そもそもどのような時代であるか、いわゆる前近代と呼ばれる時代と何が違うのかについて、理解を深めることを目的とする。具体的な到達目標は以下のとおり。 1：受講生は、世界史（主に西洋史）の概略を把握することができる。 2：受講生は、近代以降と前近代以前の違いについて理解できる。 3：受講生は、世界史の学びを通じて、異文化理解や多文化共生の考え方を身につけることができる。		
授業概要	本講義は、主に「近代」より少し前からの西洋の歴史を概観し、近代および現代という時代がどのような特徴を持つ時代であるかについて理解を深めることを目的とする。主に西洋史を扱うことになるが、それは、近代と前近代を分かち思想の多く（個人主義や自由主義）が西洋において生まれたためである。個人の自由や平等をうたうこうした思想が今なおわれわれの世界の思想的基盤をなしているであり、差別の廃止や平等の推進が世界全体での政策目標として掲げられているのである。本講義をおして、自分たちがいる世界がどのような道のりで築かれてきたかについて理解を深めてほしい。 【SDGs：1, 4, 5, 10, 16, 17】		
授業計画	① イントロダクション：「近代」とはなにか？ 世界史（西洋史）の時代区分 ② ヨーロッパ宗教改革 ③ 近世ヨーロッパの展開 ④ 「大西洋革命」と近代①：アメリカ独立革命 ⑤ 「大西洋革命」と近代②：フランス革命 ⑥ 革命の反動と国民国家の成立 ⑦ 産業革命 ⑧ 前半のまとめ ⑨ 帝国主義の時代 ⑩ 第一次世界大戦とその影響 ⑪ 第二次世界大戦へ向かう世界 ⑫ 第二次世界大戦後の世界：「近代」から「現代」へ ⑬ 「近代」的「自由」のゆくえ ⑭ 「近代」の欠陥の超克：ヨーロッパ統合と「人権」 ⑮ 全体のまとめ ⑯ 定期試験（ないしレポート）		
予復習等	予習：事前配布資料がある場合、それを読んでおく。 復習：講義中にとったメモなどを整理し、簡単にまとめておく。わからなかった、関心を持った用語・出来事について自分で調査をする。		
評価方法	出席状況・授業態度(30%)、定期試験or期末レポート(70%)		
履修条件	なし		
教科書	なし。資料を配布する。		
参考書	『大学で学ぶ西洋史〔近現代〕』／著：小山哲ほか編著／ミネルヴァ書房 『論点・西洋史学』／著：金澤周作監修／ミネルヴァ書房		

科目名	英語圏文化・社会 Anglophone Culture and Society	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	藤田 怜史	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>本講義の目的は、アメリカ合衆国が持つ様々な多様性を理解し、異文化に対する理解と関心を深めることである。具体的な到達目標は以下のとおり。</p> <p>1：受講生は、アメリカの地理的広大さが多様性の土台となっていることを理解できる。</p> <p>2：受講生は、現在のアメリカの人種的・民族的・性的多様性を把握しつつ、その多様性が認められるまでの道のりがいかなるものであったかを説明することができる。</p> <p>3：受講生は、様々なテーマに関する調査・プレゼンを通じ、アメリカの多様性について関心を深め、発信することができる。</p>		
授業概要	<p>アメリカ合衆国は様々な意味で多様性の国である。アメリカは地理的広大さゆえに多様な自然・風土を持ち、それが産業や人びとの気質にさまざまな違いを生んでいる。アメリカは白人を中心とする国であるが、アフリカから連れてこられた黒人たちはアメリカ史を語る上では欠かせない存在であり、また近年アジア系やヒスパニック系の人びとの数も増えている。またひとくちに「白人」といっても、そこにはさまざまなエスニックがいる。女性や性的マイノリティもまた歴史的な抑圧に抵抗し、権利獲得が進んでいる。受講生には、こうしたさまざまな多様性が、現代アメリカの社会や文化にどのような好影響を与えているか、あるいはどのような問題をはらんでいるかを考察してもらいたい。</p> <p>※受講生の数により、授業計画が変わる可能性がある 【SDGs：1, 4, 5, 10, 16, 17】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① イントロダクション：アメリカとはどんな国か ② アメリカの国土 ③ アメリカの地域差 ④ プレゼンⅠ：アメリカの名物・名産品・観光地・流行に関する調査1 ⑤ プレゼンⅠ：アメリカの名物・名産品・観光地・流行に関する調査2 ⑥ アメリカ黒人の歴史（1） ⑦ アメリカ黒人の歴史（2） ⑧ プレゼンⅡ：奴隷制度、黒人差別、黒人文化に関する調査 ⑨ アメリカにおける移民（1） ⑩ アメリカにおける移民（2） ⑪ プレゼンⅢ：白人移民、日系、アジア系、ヒスパニック系移民に関する調査 ⑫ アメリカにおける女性運動と性的マイノリティ（1） ⑬ アメリカにおける女性運動と性的マイノリティ（2） ⑭ プレゼンⅣ：男女平等憲法修正条項、中絶論争、同性婚などに関する調査 ⑮ まとめ：アメリカの多様性と、それに対する抵抗 ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>予習：配布物がある場合、事前にそれを読んでおくこと。また複数回行われるさまざまな調査について準備をする。</p> <p>復習：各講義で扱ったテーマに関するニュースや文献などに触れ、自身の調査に活かす。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度（20%）、プレゼン（30%）、期末レポート（50%）		
履修条件	なし		
教科書	なし。資料を配布する。		
参考書	『よくわかるアメリカの歴史』／著：梅崎透ほか編著／ミネルヴァ書房 『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』／著：遠藤泰生ほか編著／ミネルヴァ書房		

科目名	アジア文化論 Asian Cultural Studies	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）【他学科専門科目】	科目区分	講義
担当者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>日本やアジアの文化を文化人類学の立場から学ぶことを通じて、価値の多様性を理解することを目指す。具体的には、学生が日本やアジアについて文化人類学による基礎知識を修得するとともに、多様な文化を理解するために文化人類学が提出してきた文化に対する見方、考え方を理解し、アジア各地の事例について文化人類学による見方が説明できるようになることを目標とする。</p>		
授業概要	<p>最初に、文化人類学という学問の特徴や文化の概念、フィールドワークの特徴等を学ぶ。次に、日本やアジア、とりわけ日本の隣国である中国や韓国での生活様式（文化）のなかから、婚姻、家族、親族、出自などをとりあげて、それぞれについて文化人類学による見方や概念を学ぶ。レポートや定期試験では、授業で学んだ文化、婚姻、家族、親族、出自などに関する文化人類学による基礎知識や見方を身につけているかを問うので、復習を欠かさないこと。</p> <p>【SDGs：10, 16, 17】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 文化人類学について ② 文化について ③ 婚姻（1）文化人類学が考える婚姻の概念 ④ 婚姻（2）アジアでの冥婚（日本、韓国、中国漢族） ⑤ 婚姻（3）アジアでの婚姻（日本、韓国、中国漢族） ⑥ 父と母 ⑦ 家族（1）文化人類学が考える家族の概念 ⑧ 家族（2）日本の家族 ⑨ 家族（3）日本の家族、韓国の家族、中国漢族の家族 ⑩ 出自（1）出自の概念親族 ⑪ 出自（2）中国漢族、韓国の場合：父系出自親族 ⑫ 出自（3）その他の地域の場合：母系出自、双系出自 ⑬ 出自（4）日本の場合 ⑭ 親族（1）親族の概念 ⑮ 親族（2）日本、韓国、中国漢族の場合 ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>配付されたプリントを整理し、次の授業時間に使用するプリントの内容を確認しておくこと。授業後は、学んだ内容のノート整理を怠らないこと。</p>		
評価方法	レポート50%、定期試験50%		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配付する。		
参考書	『文化人類学入門』／著・祖父江孝男／出版・中央公論社（中公新書）		

科目名	中国語（文法・読解） Chinese（Grammar and Reading）	単位数	1
		必選区分	必修（中国語重点の場合）
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	王 張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本授業は中国語初心者向けの授業であり、日常会話から基礎文法を学び、簡単な作文ができる知識の習得を目的とする。「初級中国語Ⅱ」と一緒に履修することで、より効率的な中国語の上達が可能となる。受講者の知識量に合わせてフォローを行い、中国語検定試験準4級または4級の取得を目指す。		
授業概要	【担当者の実務経験：トヨタ自動車関連企業に10年間勤務（海外外出経験あり）。その後、中国国内テーマパークの水族館部門にて、副館長を5年間勤め、運営に携わった】 テキストに沿って、発音練習や文法の説明、リスニングを中心に行う中で、受講者に発音の実践や意見を求める場面がある。受講者が中国語学習で難しいと感じる点は、バイリンガルの実務経験者として、時間をかけて説明する。前期の初級中国語Ⅰで基礎を固め、後期の初級中国語Ⅱ、中国語（文法・読解）、中国系特論Ⅰを履修することで、さらなる上達が期待できる。 【SDGs：10, 16】		
授業計画	① 発音の復習（第1課～第3課） ② 第4課 你贵姓？ ③ 第4課の文法と練習 ④ 第5課 你去哪儿？ ⑤ 第5課の文法と練習 ⑥ 第6課 我想喝普洱茶。 ⑦ 第6課の文法と練習 ⑧ 第7課 你喜欢什么？ ⑨ 第7課の文法と練習 ⑩ 第8課 中国队太厉害了！ ⑪ 第8課の文法と練習 ⑫ 中国語の歌 ⑬ 会話作成の練習 ⑭ 中国語検定の練習 ⑮ 前期の復習 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】各課の文法を予習して、その説明を理解しておくこと。 【復習】前回習った内容を復習し、毎回授業の最後にリスニングの練習を行う		
評価方法	出席状況30%、小テスト30%、定期試験40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	なし		

科目名	韓国語（文法・読解） Korean（Grammar and Reading）	単位数	1
		必選区分	必修（韓国語重点の場合）
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	「初級韓国語Ⅰ」の学習の上に、学生が韓国語の基本となる文法事項を習得し、韓国語の基本的な表現ができるようになること、基本的な読解ができるようになることを目的とする。具体的には、授業で学ぶ文法事項を習得して、授業やテストで示される文章が読み取れるようになることと目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：在外公館で翻訳、通訳の経験あり。】配布するプリントの学習内容にしたがって授業を進める。翻訳、通訳の経験から日本人が習得に困難を感じると思われる点については時間をとって説明する。韓国語は漢字語も多く、文法も日本語と似ている点があるため、日本人が韓国語を書いたり話したりすると、日本語式韓国語になりやすいので、韓国語での表現を身につけるようにする。受講者には発話してもらったり、質問に答えてもらったりするので、積極的に授業に参加してほしい。 【SDGs：10, 17】		
授業計画	① ～です。～ではありません。 ② あります。います。ありません。いません。 ③ ～します。～しますか。 ④ ～ですか。 ⑤ 何ですか。いかがですか。 ⑥ ～なさいます。～してください。～しましょう。 ⑦ ～を～します。 ⑧ どこに行きますか。 ⑨ 時間、数。何が好きですか。 ⑩ ～しましょうか。～でしょう。 ⑪ ㄷ不規則変化 ⑫ 過去形、ㄹ不規則変化 ⑬ ～して～（1）고 ⑭ ～して～（2）아/어/여서 ⑮ ～から～まで。～だけれども。～しないでください。 ⑯ 定期試験		
予復習等	プリントの中から次回の授業で学ぶ範囲の単語の意味を調べ、例文を読んでおくこと。毎回授業内容の復習に努めること。		
評価方法	定期試験50%、出席状況及び授業態度50%		
履修条件	「初級韓国語Ⅰ」の単位を修得していること。		
教科書	なし。プリントを配付する。		
参考書	「初級韓国語Ⅰ」で使用した教科書		

科目名	日本語教授基礎理論 Introduction to Japanese Language Teaching	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	村中 菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	日常生活において、母語話者として無意識に使用している日本語を客観的にとらえ、外国人に日本語を教えるために知っておくべき「言語としての日本語」の特徴を理解できることを目的とする。日本語を教える際に必要な日本語の基礎知識を身につけると同時に、修得した外国語の知識や運用能力を活かすことで、実際に日本語を教える場に身を置いた際、本講義で学んだ内容を応用し実践できるようになることを到達目標とする。		
授業概要	本講義では、主に日本語教育に全く携わったことのない方を対象とした、日本語教育に必要な基礎知識を身につける。英語を中心とした外国語との対象言語学的視点から、外国人に日本語を教える際に必要な日本語のさまざまな知識や、日本語が世界の一言語としてどのような特徴をもっているのかを概略的に学ぶ。加えて、日本語の教え方の背景も自ら考えつつ学ぶ。これらの知識を身につけることにより、実際に日本語を教える際、修得した外国語の知識や運用能力を活かしつつ、外国人学習者から投げかけられるさまざまな質問に備え、自分の教え方に役立てる契機を作る。 【SDGs：4, 10】		
授業計画	① ガイダンス、外国人に日本語を教えることについて ② 言語としての日本語（1） ③ 言語としての日本語（2） ④ 日本語の音声（1） ⑤ 日本語の音声（2） ⑥ 日本語の音声（3） ⑦ 日本語の文法（1） ⑧ 日本語の文法（2） ⑨ 日本語の文法（3） ⑩ 日本語の文法（4） ⑪ 日本語の文法（5） ⑫ 日本語の文字・表記、日本語の語彙 ⑬ 社会言語学（1） ⑭ 社会言語学（2） ⑮ 日本語教育と心理学 ⑯ 定期試験		
予復習等	毎回、その日に学んだテキストを見直しておくこと		
評価方法	出席状況・受講態度40%、定期試験60%		
履修条件	なし		
教科書	『新・はじめての日本語教育』／監修：高見澤孟／出版：アスク出版		
参考書	必要に応じて配布プリント、映像教材を用いる		

科目名	日本文学概論 Japanese Literature	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	村中 菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	さまざまな時代の日本文学作品を、時代背景や表現された人間の内面を掘り起こすことで広く人間の理解につなげ、日常生活・社会生活を心豊かでよりよいものにする契機をつかむことを目的とする。各時代の作品の成立の背景や特徴を丁寧に味わいながら、作品に込められた意図や登場人物の心の動きを考え、自分の心に存在するさまざまな感情に気づくことで、どう生きるかを自ら考え、自己および他者を理解する手段として日本文学作品を活用できるようになることを到達目標とする。異文化間のコミュニケーションの手段として、日本文学作品を語れる人になることも到達目標とする。		
授業概要	上代・中古・中世・近世・近代の日本文学作品の中から、学生の皆さんに基本的な教養として知っておいてもらいたいものを厳選して取り上げ、作品世界に反映された人間のさまざまな心の側面を認識するという目的で構成されている。「難しい」という印象を抱かれがちな日本文学の世界だが、まずは身構えずにその世界を味わってみることで作品に興味を持ち、読書によって視野を広げ、感性を磨く若者が増えることを希望的目標とする。文学作品世界への認識を深め、人の心の動きについて考えることで、実生活において自己も他者も活かせる生き方を見出すきっかけにしてもらえるよう講義を進める。 【SDGs：4, 10】		
授業計画	① ガイダンス、『万葉集』（1） ② 『万葉集』（2） ③ 和歌から物語へ（1） ④ 和歌から物語へ（2）、『源氏物語』（2） ⑤ 『源氏物語』（2） ⑥ 『新古今和歌集』（1） ⑦ 『新古今和歌集』（2） ⑧ 『徒然草』 ⑨ 浄瑠璃一近松門左衛門 ⑩ 日本文学的視点から、どう生きるかを考える ⑪ 夏目漱石（1） ⑫ 夏目漱石（2） ⑬ 夏目漱石（3） ⑭ 谷崎潤一郎（1） ⑮ 谷崎潤一郎（2） ⑯ 定期試験		
予復習等	毎回、その日に学んだテキストを見直しておくこと		
評価方法	出席状況・受講態度40%、定期試験60%		
履修条件	なし		
教科書	プリントを配布する		
参考書	必要に応じて配布プリント、映像教材を用いる		

科目名	中国系特論Ⅰ Specialized Chinese Studies I	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1・2年前期）	科目区分	講義
担当者	王 張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>本授業は中国語経験者（中検4級以上）向けの授業である。中国の時事を記事や動画を通じて、中国語の読解力・リスニング力・会話力のレベル向上とともに、言語だけでなく中国の文化や現代社会への理解を深めることを目的とする。 受講者は①中国語レベルのステップアップ（中検4級から3級、3級から2級）②中国の時事について中国語で調査し、比較分析や総合分析ができるようになることを目標とする。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：トヨタ自動車関連企業に10年間勤務（海外外向経験あり）。その後、中国国内テーマパークの水族館部門にて、副館長を5年間勤め、運営に携わった】 目標①については、中検4級また3級の問題集を中心に、リスニング練習と文法の解説を行う。目標②については、時事に関する記事と動画を用意し、その歴史や社会・文化的背景を調査し、自分の意見をまとめ中国語で発表する。 【SDGs：10, 16】</p>		
授業計画	<p>① 講義の目的・到達目標、進め方、学習方法 ② 中検4級 ③ 中検4級 ④ 時事演習 ⑤ 中検4級 ⑥ 中検4級 ⑦ 時事演習 ⑧ 中級3級 ⑨ 中級3級 ⑩ 時事演習 ⑪ 中級3級 ⑫ 中級3級 ⑬ 時事演習 ⑭ 時事演習発表 ⑮ 時事演習発表 ⑯ 時事演習発表</p>		
予復習等	【予習】目標①②に対して、一定の自習を求める。		
評価方法	出席状況30%、授業の取り組み具合70%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	なし		

科目名	中国系特論Ⅱ Specialized Chinese Studies II	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1・2年後期）	科目区分	講義
担当者	王 張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>本授業は中国語経験者（中検3級以上）向けの授業である。中国の時事を記事や動画を通じて、中国語の読解力・リスニング力・会話力のレベル向上とともに、言語だけでなく中国の文化や現代社会への理解を深めることを目的とする。 受講者は①中国語レベルのステップアップ（3級から2級）②中国の時事について中国語で調査し、比較分析や総合分析ができるようになることを目標とする。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：トヨタ自動車関連企業に10年間勤務（海外外向経験あり）。その後、中国国内テーマパークの水族館部門にて、副館長を5年間勤め、運営に携わった】 目標①については、中検4級また3級の問題集を中心に、リスニング練習と文法の解説を行う。目標②については、時事に関する記事と動画を用意し、その歴史や社会・文化的背景を調査し、自分の意見をまとめ中国語で発表する。 【SDGs：10, 16】</p>		
授業計画	<p>① 講義の目的・到達目標、進め方、学習方法 ② 中検3級 ③ 中検3級 ④ 時事演習 ⑤ 中検3級 ⑥ 中検3級 ⑦ 時事演習 ⑧ 中検2級 ⑨ 中検2級 ⑩ 時事演習 ⑪ 中検2級 ⑫ 中検2級 ⑬ 時事演習 ⑭ 時事演習発表 ⑮ 時事演習発表 ⑯ 時事演習発表</p>		
予復習等	【予習】目標①②に対して、一定の自習を求める。		
評価方法	出席状況30%、授業の取り組み具合70%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	なし		

科目名	韓国系特論 I Specialized Korean Studies I	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1・2年前期）	科目区分	講義
担当者	川上 新二	教員区分	校内教員
授業目的 到達目標	令和7年度入学生で、入学時に韓国語中級レベルの能力を持った学生を対象に開講する。韓国語の長文を講読しながら学生の韓国語能力をさらに高めるとともに、韓国の文化・社会についての知識も得る。韓国の文化・社会の知識を持って、韓国語の長文が読解できるようになることを到達目標とする。		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：在外公館での翻訳、通訳の経験あり】中級レベルの韓国語学習者用に編集された韓国の民話、日記形式の文章、現代社会を題材にした随筆などを配布して授業を進める。翻訳、通訳の経験から日本人が習得に困難を感じると思われる点については時間をとって説明する。学生自らが長文を講読して訳すとともに、担当教員からも韓国文化・社会について講義することで、学生の韓国理解に努める。</p> <p>【SDGs：10,16】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 民話（1） ② 民話（2） ③ 民話（3） ④ 民話（4） ⑤ 日記（1） ⑥ 日記（2） ⑦ 随筆（1） ⑧ 随筆（2） ⑨ 随筆（3） ⑩ 随筆（4） ⑪ 随筆（5） ⑫ 随筆（6） ⑬ 民話（5） ⑭ 民話（6） ⑮ 民話（7） 		
予復習等	次回講読する文章の単語の意味を調べ、文章に目を通しておくこと。		
評価方法	出席状況・受講態度50%、レポート50%		
履修条件	入学時に韓国語中級レベルの能力のある学生（検定試験合格者、高校での韓国語授業単位の修得者など）を対象に開講する。受講希望者は、担当教員に相談すること。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	必要に応じて紹介する。		

科目名	韓国系特論 II Specialized Korean Studies II	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1・2年後期）	科目区分	講義
担当者	川上 新二	教員区分	校内教員
授業目的 到達目標	令和7年度入学生で、入学時に韓国語中級レベルの能力を持った学生を対象に開講する。「韓国系特論 I」に続いて韓国語の長文を講読しながら学生の韓国語能力をさらに高めるとともに、韓国の文化・社会についての知識も得る。韓国の文化・社会の知識を持って、韓国語の長文がさらに読解できるようになることを到達目標とする。		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：在外公館での翻訳、通訳の経験あり】中級レベルの韓国語学習者用に編集された手紙形式の文章、民話、地誌、歴史書に見られる出来事、現代社会を題材にした随筆などを配布して授業を進める。翻訳、通訳の経験から日本人が習得に困難を感じると思われる点については時間をとって説明する。学生自らが長文を講読して訳すとともに、担当教員からも韓国文化・社会について講義することで、学生の韓国理解に努める。</p> <p>【SDGs：10,16】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 手紙形式の文章（1） ② 手紙形式の文章（2） ③ 民話（1） ④ 民話（2） ⑤ 地誌（1） ⑥ 地誌（2） ⑦ 歴史書にみられる物語（1） ⑧ 歴史書にみられる物語（2） ⑨ 随筆（1） ⑩ 随筆（2） ⑪ 偉人伝（1） ⑫ 偉人伝（2） ⑬ 随筆（3） ⑭ 随筆（4） ⑮ 民俗紹介 		
予復習等	次回講読する文章の単語の意味を調べ、文章に目を通しておくこと。		
評価方法	出席状況・受講態度50%、レポート50%		
履修条件	入学時に韓国語中級レベルの能力のある学生（検定試験合格者、高校での韓国語授業単位の修得者など）を対象に開講する。受講希望者は、担当教員に相談すること。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	必要に応じて紹介する。		

科目名	多文化共生社会論 Multicultural Society	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期） 【他学科専門科目】【岐阜学関連科目】	科目区分	講義
担当者	孫 ミギヨン	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	総務省は多文化共生を「国籍や民族など異なる人々が、お互いの文化を認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」と定義している。この授業では多文化社会をめぐる基本的な概念の理解や日本の中での共生について考察し、多文化共生社会のあり方や日本社会の状況に照らして考えられることを到達目標とする。		
授業概要	世界的に人の移動が活発になり、移民・難民の数は増え続けている。この授業では、多文化に関する基本的な概念や世界各地の多文化現状について学ぶ。また、外国人労働者は同時に生活者、地域住民でもあるという視点に立ち、外国人受け入れのために日本及び地域社会はどう変わるべきかについて考える。また、日本の多文化状況について理解を深め、日本における外国人差別問題や外国人労働者問題、国際交流や国際化がもたらす問題などさまざまな角度から考える。 【SDGs：3, 10, 11, 16】 【岐阜学関連の授業回：⑧, ⑨】		
授業計画	① ガイダンス ② 文化と多文化社会 ③ 多文化社会の理解：概念、世界化、移住など ④ アメリカにおける多文化共生 ⑤ ヨーロッパにおける多文化共生 ⑥ 日本における多文化共生 ⑦ 韓国における多文化共生 ⑧ 岐阜県の多文化共生と外国人 ⑨ 多文化社会と人権課題 ⑩ 多文化共生のまち：日本の事例 ⑪ 多文化共生のまち：韓国の事例 ⑫ グループ発表① ⑬ グループ発表② ⑭ グループ発表③ ⑮ まとめ ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】日頃のニュースに関心を持つこと 【復習】講義内容を復習しながら、関心を持ったテーマに関する調査を行う		
評価方法	【自学科学生の場合】 出席状況・授業態度20%、グループ発表30%、定期試験(レポート)50%(授業回数の3分の1をこえて欠席した場合は評価の対象にならない) 【他学科学生の場合】 出席状況50%、定期試験(レポート)50%(授業回数の3分の1をこえて欠席した場合は評価の対象にならない)		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	適宜プリントを配布する		

科目名	観光概論 Tourism Studies	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）【岐阜学関連科目】	科目区分	講義
担当者	宮道 利典	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	「観光（旅）」と社会生活や産業活動との関係を考察し、その経済的役割についての理解を深め、社会における意義をツーリズム産業の視点から考える。「観光」の間口は広いので、その「学びの間口の広さ」から観光を学ぶことを通して課題発見能力「何が必要か」「何が課題か」、そして課題解決能力「そのために何をすべきか」「どのようにすれば解決できるか」を創造的に考える力を養い、身に着けることの大切さを理解させる。		
授業概要	【担当者の実務経験：旅行会社41年間勤務において、法人営業・公務営業、海外旅行商品企画、航空仕入、法務、広報等業務、及び地域観光協会事務局長業務の経験あり】 「21世紀の成長産業であるツーリズム産業とはどのような産業か、観光とは何か、観光ビジネスの特性は何か」といった、観光を学ぶ上で習得しておく必要がある基本的な事柄を学んでいく。同時に、人々の観光に対する意識の変化を受けて、「観光ビジネスや観光地の現場で実際に起きていること」、そして今後の動きを見通しながら「観光ビジネスや観光地がどのような対応をしようとしているか」について理解を深めてもらう。また、岐阜県の豊富な観光資源を活かした観光戦略についても学んでいく。 【SDGs：3, 9, 11】 【岐阜学関連の授業回：③, ⑪, ⑬, ⑭】		
授業計画	① オリエンテーション-ツーリズム産業の現状 ② 観光を学ぶ意義、観光の様々な効果、観光に関わる言葉 ③ 観光を構成する要素、観光の事業のしくみ、観光資源と観光対象 ④ 観光産業の構成と特徴 ⑤ 様々な観光ビジネス-旅行業 ⑥ 様々な観光ビジネス-宿泊産業 ⑦ 様々な観光ビジネス-交通運輸業 ⑧ 様々な観光ビジネス-テーマパーク、スキー場、展示鑑賞施設、土産品業 ⑨ 観光と情報 ⑩ 観光政策と観光行政-岐阜県の観光推進計画 ⑪ 観光のマーケティング ⑫ 旅の歴史とこれからの旅行-サステナブルツーリズム ⑬ 観光と国際経済・社会・文化-インバウンドと異文化理解、岐阜県のインバウンド観光 ⑭ 地域観光コンテンツ造成(個人ワーク) ⑮ まとめ ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】教科書の授業に該当する箇所をよく読んでおくこと。 【復習】授業で学んだことをふまえて、実際に「旅」に出て、自分の目で観光がどのように地域経済にかかわっているのか、人間形成にどんな影響を与えているのかを考えてみる。		
評価方法	【自学科学生の場合】 定期試験(70%)、個人ワーク(20%)に出席状況等(10%)を加味して評価する。 【他学科学生の場合】 定期試験(70%)、個人ワーク(20%)に出席状況等(10%)を加味して評価する。		
履修条件	なし		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	『観光学基礎 観光に関する14章』/ 出版：株式会社 J T B 総合研究所		

科目名	地域研究概論 Area Studies	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）[岐阜学関連科目]	科目区分	講義
担当者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	民俗宗教（民間信仰）の調査、研究のさまざまな事例を通して地域研究の方法や視点を学ぶとともに、それぞれの地域の人々が伝えてきた精神世界を理解することを旨とする。具体的には、学生が民俗宗教に関する調査方法や基礎知識を修得するとともに、それぞれの地域の人々が伝えてきた精神世界を理解するために民俗宗教研究が提出してきた見方、考え方を理解し、それぞれの事例について民俗宗教研究に基づく見方が説明できるようになることを目標とする。		
授業概要	最初に、地域研究を通じて学ぶ民俗宗教（民間信仰）の概念について紹介する。次に、地域研究の例として各地で行われた民俗宗教研究を取り上げる。具体的には、本学周辺地区（一日市場地区）で行われている祭礼を紹介し、現状での課題を検討する。次いで、沖縄地方の祭礼と民間宗教者、日本の中国地方や東北地方での祭礼の様相や、地域の人々の要望に応える民間宗教者について紹介し、人間と神霊との関係性、民間宗教者の役割を検討する。さらに、韓国での民間宗教者についても紹介する。 【SDGs : 10, 16】 【岐阜学関連の授業回 : ②, ③】		
授業計画	① 地域研究、民俗宗教（民間信仰）について ② 大学周辺（一日市場地区）での祭礼 ③ 大学周辺（一日市場地区）での祭礼の課題 ④ 祭礼と精霊憑依（憑霊） ⑤ 沖縄伊良部島での祭礼 ⑥ 沖縄伊良部島での民間宗教者 ⑦ 南西諸島（奄美、沖縄、先島諸島）の民俗宗教 ⑧ 日本の東北地方の民間宗教者 ⑨ 日本の東北地方での民間宗教者と仏教僧侶との関係 ⑩ 民俗宗教研究から見た宗教者の分類 ⑪ 精霊憑依（憑霊）とシャーマニズム ⑫ インドネシア・バリでの事例 ⑬ 韓国での事例（1）：韓国での民間宗教者 ⑭ 韓国での事例（2）：珍島の民間宗教者 ⑮ 韓国での事例（3）：儒教祭祀 ⑯ 定期試験		
予復習等	配布されたプリントを整理し、次の時間に使用するプリントの内容を確認しておくこと。授業後は学んだ内容のノート整理を怠らないこと。		
評価方法	レポート50%、定期試験50%		
履修条件	比較宗教学、文化交流論を合わせて受講するのが望ましい。		
教科書	なし。プリントを配付する。		
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。		

科目名	比較宗教学 Comparative Religion	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）	科目区分	講義
担当者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	世界の人々と生きる私たちは、さまざまな宗教と出会う。宗教は世界を知るための窓の一つとなる。世界各地で営まれているさまざまな宗教について、比較宗教学の観点から学ぶ。具体的には、学生が比較宗教学の観点から、宗教に関する基礎知識を修得するとともに、それぞれの宗教の特徴、各宗教間の異同や関係が説明できるようになることを目標とする。		
授業概要	最初に、宗教学、比較宗教学という学問の特徴や、信仰としての宗教ではなく文化としての宗教の概念について学ぶ。次に宗教の原初形態（宗教の起源）、宗教と呪術との関係、さまざまな宗教をグループ分けの際の考え方について学ぶ。続いて、比較宗教学が提出してきた宗教の見方に基づいて、宗教的实在観（各宗教が考える本当のもの、真実の存在）、宗教的人間観（各宗教が人間を如何にとらえているか）、宗教的世界観（各宗教が世界をどのようにとらえているか）について学ぶ。さらに宗教儀礼、宗教集団、宗教体験、宗教の役割についても学ぶ。 【SDGs : 10, 16, 17】		
授業計画	① なぜ宗教を学ぶか。宗教、宗教学とは。 ② 宗教の原初形態（1） ③ 宗教の原初形態（2） ④ 宗教と呪術 ⑤ 宗教の諸類型（1） ⑥ 宗教の諸類型（2） ⑦ 宗教的实在観（1） ⑧ 宗教的实在観（2） ⑨ 宗教的人間観（1） ⑩ 宗教的人間観（2） ⑪ 宗教的世界観（1） ⑫ 宗教的世界観（2） ⑬ 宗教体験 ⑭ 宗教集団 ⑮ 宗教儀礼 ⑯ 定期試験		
予復習等	配付されたプリントを整理し、次の授業時間に学ぶ内容を確認しておくこと。授業後は学んだ内容のノート整理を怠らないこと。		
評価方法	レポート50%、定期試験50%		
履修条件	地域研究概論、文化交流論を合わせて受講することが望ましい。		
教科書	なし。プリントを配付する。		
参考書	『宗教学入門』／著・脇本平也／出版・講談社（講談社学術文庫）		

科目名	ホテル論 Hotel Management	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）【岐阜学関連科目】	科目区分	講義
担当者	宮道 利典	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	都市中心に新規ホテルオープンが続く好調なホテル業界。そのホテル業界の動向や多様なホテル機能、運営と業務内容について学び、観光地・地域におけるホテルの機能と役割について社会生活や産業活動との関係を理解する。またホスピタリティ産業と言われるホテル業界の業務内容を学ぶことを通して、「ホスピタリティとは何か」を創造的に考え、その本質を理解できることを目標とする。		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：旅行会社41年間勤務において、海外ホテルの客室を仕入の上、海外旅行の企画・販売業務に18年間担当。その他航空仕入、法務、広報等業務、及び地域観光協会事務局長業務の経験あり】</p> <p>ホテルの歴史、ホテル業の定義から経営と組織の特性、ホテル内の業務及びホテル業界の動向等のホテルビジネスの基本的な事柄を学んでいく。同時に、「ホテル業界の観光産業内における役割」、そして今後の動きを見通しながら「ホテル業界の観光地における機能」について理解を深めてもらう。また、岐阜県のホテル業界の動向についても学んでいく。</p> <p>【SDGs：3, 9, 11】 【岐阜学関連の授業回：④, ⑥, ⑫, ⑬】</p>		
授業計画	<p>① オリエンテーションー宿泊産業の現状</p> <p>② ホテルの定義と分類</p> <p>③ 欧米におけるホテルの歴史</p> <p>④ 日本におけるホテルの歴史</p> <p>⑤ ホテル業の経営形態</p> <p>⑥ ホテルの組織構造</p> <p>⑦ 宿泊部門の基礎知識（1）</p> <p>⑧ 宿泊部門の基礎知識（2）</p> <p>⑨ 料飲部門と宴会部門の基礎知識</p> <p>⑩ 調理部門と営業部門の基礎知識</p> <p>⑪ 管理部門の基礎知識</p> <p>⑫ ホテルのマーケティング</p> <p>⑬ ホテル産業の課題と戦略</p> <p>⑭ ホテルのホスピタリティとホテルスタッフに求められる能力</p> <p>⑮ まとめ</p> <p>⑯ 定期試験</p>		
予復習等	<p>【予習】 宿泊産業や観光産業のニュースを読み、業界の動向を把握すること。</p> <p>【復習】 配布資料を振り返り、要点を整理すること。</p>		
評価方法	<p>【自学科生の場合】 定期試験(70%)、個人ワーク(20%)に出席状況等(10%)を加味して評価する。</p> <p>【他学科生の場合】 定期試験(70%)、個人ワーク(20%)に出席状況等(10%)を加味して評価する。</p>		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	『ホテル概論』 / 出版：株式会社 J T B 総合研究所		

科目名	英語表現 I English Expression I	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	大澤 聡子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本授業は、英語コミュニケーション能力の中で特に「聞く」「話す」技能の運用能力向上を目的とする。CNN放送から選ばれたビジネスをテーマとしたニュース映像を視聴し、①ナチュラルスピードで話される内容を理解できること、②ニュース内容を要約して自分の言葉で伝えることができることを到達目標とする。		
授業概要	<p>本授業では、世界最大のニュース専門メディアであるCNN放送を教材とし、労働、雇用などの社会情勢に関するニュースや最新のビジネストrend、ライフスタイルに影響のあるハイテクなどのニュース映像を視聴する。</p> <p>「聞く」技能のトレーニングとしてシャドーイングを行い、ニュースのスピードに慣れる。さらに、各自が興味のある話題をリサーチし、自分の言葉で要約して発表を行い、「話す」技能を身につける。</p> <p>【SDGs：4】</p>		
授業計画	<p>① ガイダンス Unit 1</p> <p>② unit 2, Unit 3</p> <p>③ unit 4, Unit 5</p> <p>④ Unit 6, Unit 7</p> <p>⑤ Review, Research</p> <p>⑥ Presentation</p> <p>⑦ unit 8, Unit 9</p> <p>⑧ unit 10, Unit 11</p> <p>⑨ Review, Research</p> <p>⑩ Presentation</p> <p>⑪ unit 12, Unit 13</p> <p>⑫ unit 14, Unit 15</p> <p>⑬ Review, Research</p> <p>⑭ Research, Rehearsal</p> <p>⑮ Presentation</p> <p>⑯ 定期試験</p>		
予復習等	<p>【予習】 テキストの該当範囲の問題を解いておく。</p> <p>【復習】 音声ストリーミング配信を使って、復習する。単語リストを作る</p>		
評価方法	出席状況・授業態度20%、発表20%、小テスト20%、定期試験40%		
履修条件	なし		
教科書	CNN Short News for Listening Business / 著：JACET関西支部教材開発研究会 / 出版：朝日出版社		
参考書	なし		

科目名	英語表現Ⅱ	単位数	1
	English Expression Ⅱ	必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	松家 鮎美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>本授業の目的は、旅行中に遭遇するさまざまなシチュエーションで役立つ英語表現を学び、実際に使える会話スキルを向上させることです。空港やホテル、観光地での会話をスムーズに行い、旅行先で英語を使いこなす力を養成します。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：①航空会社における国際線の乗務 ②米国テレビ局での勤務】 本コースでは、旅行に必要な基本的な英語表現を学び、実際の旅行シーンを想定したロールプレイやディスカッションを通じて、英語表現力を強化します。交通機関、宿泊施設、観光地でのやり取りに必要なフレーズや語彙を中心に学び、旅行に関するさまざまなトピックについて会話をします。授業後、学んだ表現を実際の旅行で活用できるよう、シミュレーションを行います。 【SDGs：④,⑩,⑰】</p>		
授業計画	<p>① ガイダンス、旅行の準備と出発 ② 空港での会話 ③ 飛行機内での会話 ④ 旅行先の交通手段 ⑤ ホテルのチェックイン ⑥ ホテルでの問題解決 ⑦ レストランでの注文 ⑧ 観光地での案内 ⑨ 買い物 ⑩ トラブルと緊急時の対応 ⑪ 観光地での移動 ⑫ 友達を作る・交流する ⑬ 体験をシェアする ⑭ 帰国手続きと空港での会話 ⑮ 総まとめとロールプレイ ⑯ 定期試験</p>		
予復習等	<p>[予習] 授業で指示された内容に基づき、事前課題を進めておくこと。 [復習] ワークシートの練習問題を解いたり、指示された動画を視聴するなどして、学んだ内容を確認・復習すること。</p>		
評価方法	<p>【自科学生の場合】履修態度20%、パフォーマンス20%、定期試験60% 【他科学生の場合】履修態度20%、パフォーマンス20%、定期試験60%</p>		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	授業中に適宜指示をする。		

科目名	検定英語演習Ⅱ	単位数	1
	Skills for English Proficiency Exams Ⅱ	必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	佐竹 直喜	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>TOEIC650～700点獲得を目指して必要な英語力を身につけることを目的とする。 また英検準1級の問題にも挑戦する。 TOEICに必要な英単語力の強化、リスニング演習、リーディング演習を行い、指定のテキストにも毎時間取り組む。 また、ぜひTOEICのための英語の勉強にならず、TOEICを活用し英語を勉強するという姿勢を身につけたい。</p>		
授業概要	<p>授業では、TOEICによく取り上げられるテーマを基にリスニング、リーディングの演習を行い、基礎的な英語力の向上を図るとともに、TOEIC各パートのスコアアップを目指す。英単語力の強化、リスニング演習、リーディング演習を行い、指定のテキストにも毎時間取り組み、答え合わせや説明を行う。 また、指定テキストの進度等を考慮しながら、演習、小テスト、課題提出に取り組む。 【SDGs：4,5,9】</p>		
授業計画	<p>① オリエンテーション TOEICまたは英検の模擬問題等でウォームアップを行う。 ② Unit 1 ③ Unit 2 ④ Unit 3 ⑤ Unit 4 ⑥ Unit 5 ⑦ リスニング演習 ⑧ Unit 6 ⑨ Unit 7 ⑩ Unit 8 ⑪ リスニング演習 ⑫ Unit 9 英検準1級演習 ⑬ Unit 10, 英検準1級演習 ⑭ Unit 11, 英検準1級演習 ⑮ Unit 12, 英検準1級演習 ⑯ (課題提出等)</p>		
予復習等	<p>各自学習した教材の復習を行い、土台の積み上げをすること。 また、インターネット等を利用して、いろいろな英語題材に触れ、インプットを増やすこと。</p>		
評価方法	<p>授業参加状況（課題の提出を含む場合がある）40% 小テスト等 60%</p>		
履修条件	なし		
教科書	<p>・TOEIC® L&R TEST への総合アプローチ -Advanced- (成美堂) ・学校語彙で学ぶTOEIC®テスト【単語集】一改訂新版— THE 1500 CORE VOCABULARY FOR THE TOEIC® TEST -Revised Edition- (成美堂)</p>		
参考書	なし		

科目名	国際関係概論 International Relations	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）【他学科専門科目】	科目区分	講義
担当者	藤田 怜史	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>本講義は、きわめて不安定な現在の国際関係に関する理解を深めることを目的とする。特にウクライナやパレスチナ問題などに焦点を当て、国際関係の重要問題への多面的な理解を深める。具体的な到達目標は以下のとおり。</p> <p>1：受講生は、国際関係の歴史を概観することで、現在の諸問題の背景を理解することができる。</p> <p>2：受講生は、国際関係の重大問題に対して多面的な理解ができる。</p> <p>3：受講生は、プレゼンテーション等を通じて、理解した内容をわかりやすく発信できる。</p>		
授業概要	<p>2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻、2023年10月に本格化したパレスチナ（ハマス）とイスラエルの武力衝突、そして台湾をめぐる緊張の継続など、いまの世界はきわめて不安定な状態にある。受講生は本講義を通して、世界がなぜそうした状態に陥ったのかを深く理解し、世界がこれからどのような方向に進んでいくかを積極的に考察することを目指す。</p> <p>本講義は大きく2つのパートに分かれる。前半は国際関係の歴史を概観することで、国際関係を通史的かつ構造的に理解する。後半は、ウクライナ問題やパレスチナ問題など、国際関係の重大問題を取りあげ、関連する文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッションを中心に授業を進める。受講生の能動的な授業参加を期待する。（なお、受講生の人数などにより計画が変更になることもありうる。）</p> <p>【SDGs：1, 4, 5, 10, 16, 17】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① イントロダクション：「国際関係論」とはなにか ② 「ヨーロッパ共和国」の成立と拡大 ③ 帝国主義の時代 ④ 第一次世界大戦 ⑤ 第二次世界大戦 ⑥ 米ソ冷戦の時代 ⑦ 多極化する世界 ⑧ 現代の諸問題：ウクライナ、パレスチナ、米中対立 ⑨ 文献講読・プレゼンテーション① ⑩ 文献講読・プレゼンテーション② ⑪ 文献講読・プレゼンテーション③ ⑫ 文献講読・プレゼンテーション前半のまとめ ⑬ 文献講読・プレゼンテーション⑤ ⑭ 文献講読・プレゼンテーション⑥ ⑮ 文献講読・プレゼンテーション⑦ ⑯ 期末レポート 		
予復習等	<p>予習：事前に配布資料がある場合、それを読んでから講義に臨む。プレゼンの準備をする。</p> <p>復習：講義内容を整理し、わかりにくかったところなどを次回質問する。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度（15%）、プレゼン・ディスカッション（35%）、期末レポート（50%）		
履修条件	特にないが、プレゼンテーションとディスカッションが中心の授業になるので、能動的な姿勢が必要である。		
教科書	なし。資料を配布する。		
参考書	『ロシア・ウクライナ戦争』／著：塩川伸明ほか編著／東京堂出版 『イスラエル——人類史上最もやっかいな問題』／著：ダニエル・ソカッチ／NHK出版		

科目名	現代企業事情 Contemporary Business Trend	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期） 〔岐阜学関連科目〕	科目区分	講義
担当者	王 張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>本授業は大学生を対象に、就職活動から老後までの長い人生において、様々な働き方とキャリアデザインの事例紹介を通して、仕事との付き合い方や、働く上で自分にとって大事なことは何かを考える。また、日本社会の仕組み、企業概念、種類、行動原理を理解し、組織の一員として求められる能力や資質を理解した上で、卒業後の自己将来像を明確にし、将来像に向けて取り組むべき目標や課題を見つける。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：トヨタ自動車関連企業に10年間勤務（海外外向経験あり）。その後、中国国内テーマパークの水族館部門にて、副館長を5年間勤め、運営に携わった】</p> <p>本授業は岐阜市の中小企業を中心に、様々な企業の経営者、人事担当者、営業担当者などを授業に招き、交流会形式で会社の基本機能（経営管理、経営戦略、製品開発、マーケティング、人材の育成、福利厚生）の理解を深める。また、働く上での経験談や挫折、人間関係を円滑に行うための秘訣などについて知る貴重な機会となるため、質問等の授業への積極的な参加姿勢が好ましい。</p> <p>【SDGs：5, 8, 9】</p> <p>【岐阜学関連の授業回：③～⑩】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 講義の目的・到達目標、進め方、学習方法 ② 企業概念・種類 ③ 企業が求める人材像 ④ お金について（社会保険、年金、ボーナス、投資など） ⑤ 企業での働き方（実務者との交流会） ⑥ 職場における研修・昇給・昇進について ⑦ 企業での働き方（実務者との交流会） ⑧ 職場における女性社員の話 ⑨ 企業での働き方（実務者との交流会） ⑩ 職場における問題解決の考え方 ⑪ 企業での働き方（実務者との交流会） ⑫ グループディスカッション ⑬ グループディスカッション ⑭ グループ発表 ⑮ グループ発表 ⑯ グループ発表 		
予復習等	<p>【予習】日頃のニュースやトレンドに関心を持つこと。</p> <p>【復習】疑問に感じたことを調べたり、teamsにて質問や意見交換などを行う</p>		
評価方法	授業への参加度60%、グループ発表40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	使わない。パワーポイントを使用する		
参考書	なし		

科目名	世界が見る日本 Japan Through the World's Eye	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	講義
担当者	佐竹 直喜	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>・指定したテキストおよび配布資料を批判的に読み分析し、世界と日本の関係から「世界が見る日本」について議論し考えを深める。海外の人々に映る日本の姿がどのようなものであるのか、そういったことについて自らの考えを確立したい。</p> <p>・自らの調べ学習を通し、発表・交流をすることで世界から日本がどう見えるかということについて幅広い見識を持つことを目指す。</p>		
授業概要	<p>①英字新聞等の記事や英語のニュースメディアを通し、日本で起きている出来事を英語で理解し、インプットする。授業は英語の読解、聞き取り、インプットすべき英語表現の暗記を伴う。海外に積極的に発信できそうな日本についての知識を増やす。</p> <p>②指定したテキスト、配布資料を読み込み、世界の中での日本の位置づけについて考えを交わし、理解を深める。</p> <p>③テーマを設定し、調べ学習を行い、世界から日本がどう見えるかについて発表する。</p> <p>【SDGs：17】</p>		
授業計画	<p>① オリエンテーション</p> <p>② 英字新聞読解、テキスト輪読</p> <p>③ 英字新聞読解、テキスト輪読</p> <p>④ 英字新聞読解・ニュースメディア、テキスト輪読、調べ学習発表</p> <p>⑤ 英字新聞読解・ニュースメディア、テキスト輪読、調べ学習発表</p> <p>⑥ 英字新聞読解・ニュースメディア、テキスト輪読、調べ学習発表</p> <p>⑦ 英字新聞読解・ニュースメディア、テキスト輪読、調べ学習発表</p> <p>⑧ 英字新聞読解・ニュースメディア、テキスト輪読、調べ学習発表</p> <p>⑨ 英字新聞読解・ニュースメディア、テキスト輪読、調べ学習発表</p> <p>⑩ 英字新聞読解・ニュースメディア、テキスト輪読、調べ学習発表</p> <p>⑪ 英字新聞読解・ニュースメディア、テキスト輪読、調べ学習発表</p> <p>⑫ 英字新聞読解・ニュースメディア、テキスト輪読、調べ学習発表</p> <p>⑬ 英字新聞読解・ニュースメディア、テキスト輪読、調べ学習発表</p> <p>⑭ 英字新聞読解・ニュースメディア、テキスト輪読、調べ学習発表</p> <p>⑮ まとめ</p>		
予復習等	<p>・普段から日本国内外の時事ニュース等に関心を深め情報をインプットする。</p> <p>・指定テキスト、配布資料を授業内外で何度も読み込む。</p>		
評価方法	授業参加状況（発表等を含む場合がある）40%、レポート提出60%		
履修条件			
教科書	高市 早苗(2021)『美しく、強く、成長する国へ。』（ワック）		
参考書			

科目名	地域振興論 Regional Development	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期） [岐阜学関連科目]	科目区分	講義
担当者	孫 ミギョン	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>地域振興は、人間の暮らしをより豊かにするために、地域社会の経済的・文化的・社会的・政治的条件などの改善を通じて地域の魅力を引き出すことである。本授業では、地域振興に関する概念や事例の考察を通じて、岐阜の魅力や振興を主体的に考える能力を育てることを目的とする。</p>		
授業概要	<p>本講義では、地域振興に関わる基本的な概念や実際の国内外の地域振興事例について学ぶ。講義とグループワークを通じて岐阜県・岐阜市の現状や地域が抱える悩み・取り組みなどを調べて、今後の地域振興の在り方や解決策を考える。</p> <p>【SDGs：9, 11, 17】</p> <p>【岐阜学関連の授業回：⑬, ⑭, ⑮】</p>		
授業計画	<p>① ガイダンス</p> <p>② 地域と文化、そして空間：地域概念、地域分類、地域文化など</p> <p>③ 地域文化と地域文化資源</p> <p>④ 都市化：都市化の種類、都市景観</p> <p>⑤ 都市再生：概念と戦略、ジェントリフィケーションなど</p> <p>⑥ 地域開発と政策：地域開発の定義、発展戦略など</p> <p>⑦ 地域文化資源開発の種類</p> <p>⑧ 日本の文化資源(世界文化遺産、世界自然遺産、世界記録遺産など)</p> <p>⑨ 国内・外における地域文化資源の活用事例①</p> <p>⑩ 国内・外における地域文化資源の活用事例②</p> <p>⑪ 国内・外における地域文化資源の活用事例③</p> <p>⑫ 国内・外における地域文化資源の活用事例④</p> <p>⑬ グループ発表：文化資源と地域振興①</p> <p>⑭ グループ発表：文化資源と地域振興②</p> <p>⑮ グループ発表：文化資源と地域振興③</p> <p>⑯ 定期試験</p>		
予復習等	<p>【予習】新聞、雑誌、インターネットなどで、地域振興、地域文化などに関するテーマに関心を向けること。</p> <p>【復習】授業内容を振り返り、要点を整理すること。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度20%、グループ発表30%、定期試験(レポート)50%(授業回数3分の1をこえて欠席した場合は評価の対象にならない)		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	なし		

科目名	国際協力論	単位数	2
	International Cooperation	必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）	科目区分	講義
担当者	荒木 隆人	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	最近、「SDGs」や「持続可能」という言葉をよく聞くようになっている。「SDGs」や「持続可能」といったことをキーワードに、本講義では、開発援助、人権問題、地球環境問題、平和構築の4つの課題をもとに国際協力のあり方を学ぶ。到達目標としては、途上国の貧困問題、基本的な人権の問題、地球温暖化、内戦及び地域紛争の防止や紛争後の復興支援といった課題について十分に理解し、説明できることである。		
授業概要	2015年、国連総会において持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)が採択され、日本も積極的にその推進に取り組んでいる。SDGsの具体的目標の中でも、途上国の貧困・飢餓に関する問題（南北問題と政府開発援助の可能性）、基本的人権の問題（第二次大戦後の国際人権レジームの形成）、地球温暖化に代表される地球環境問題（二酸化炭素排出削減への取り組み等）、内戦及び地域紛争の防止や紛争後の復興支援（国連平和維持活動等）への取り組みは中心的なものである。それゆえ、本講義では開発援助、人権問題、地球環境問題、平和構築の4つの分野から国際協力の在り方を検討する。それらを考えることは、以下のようにSDGsのすべての項目を考えることにつながる。 【SDGs：1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① ガイダンス：持続可能な開発目標(SDGs)とは ② 貧困問題と開発援助（南北問題と持続可能な開発） ③ 貧困問題と開発援助（政府開発援助） ④ 貧困問題と開発援助（日本のODA） ⑤ 貧困問題と開発援助（ODAの展望） ⑥ 人権問題と国際協力（戦後の人権保護） ⑦ 人権問題と国際協力（冷戦期における人権保護） ⑧ 人権問題と国際協力（冷戦後における人権保護） ⑨ 地球環境問題と国際協力（地球環境問題とは） ⑩ 地球環境問題と国際協力（地球環境レジーム1） ⑪ 地球環境問題と国際協力（地球環境レジーム2） ⑫ 平和構築の国際協力（平和維持） ⑬ 平和構築の国際協力（平和構築） ⑭ 平和構築の国際協力（平和構築と日本の協力1） ⑮ 平和構築の国際協力（平和構築と日本の協力2） ⑯ まとめ 		
予復習等	【予習】講義内で紹介する教科書等で各回の講義で扱う内容について予習をすること 【復習】講義で配布された資料を理解した上で、一層理解を深めるために参考書等で調べること		
評価方法	小課題20%、期末レポート80%		
履修条件	なし		
教科書	『国際政治学をつかむ』／著・村田晃嗣ほか／出版：有斐閣、ISBN 978-4641177222		
参考書	『国際協力—その新しい潮流』／著：下村恭民／出版：有斐閣、その他の参考書は講義内で指示する。		

科目名	ヨーロッパ文化論	単位数	2
	European Cultural Studies	必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	講義
担当者	鈴木 辰一	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	ヨーロッパの文化を研究する上で基礎となる知識の習得を目標とします。授業の前半では、ヨーロッパの概要、ヨーロッパに存在する国々に関する知識の習得を目指します。後半では、ヨーロッパの文化的基盤を構成する古典文献の講読を通じて、ヨーロッパの人々と共通の文化的な知識を身につけます。これらを通して、世界の人々とコミュニケーションをとる際に間接的に役立てることのできる知識の習得を目指します。		
授業概要	この授業ではまず、ヨーロッパ全体像とそれを構成する国々について学ぶ際に必要な基本事項を概観します。その際、グループでヨーロッパの国々のことを調べ、発表していただく機会を設けます。次に、ヨーロッパの文化的基盤となっている古典テクストを講読します。ギリシア・ローマ神話と聖書に出てくるよく知られたエピソードを、英語で書かれた文献を用いて講読します。本授業はオンデマンドで実施します。 【SDGs：17】 【岐阜学関連の授業回：⑤】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② ヨーロッパの国々(1) ③ ヨーロッパの国々(2) ④ ヨーロッパの歴史 ⑤ ヨーロッパの文学(1) ⑥ ヨーロッパの文学(2) ⑦ ヨーロッパの文学(講読) ⑧ ヨーロッパの芸術 ⑨ ヨーロッパの芸術(講読) ⑩ 聖書講読(1) ⑪ 聖書講読(2) ⑫ 聖書講読(3) ⑬ ギリシア・ローマ神話(1) ⑭ ギリシア・ローマ神話(2) ⑮ ギリシア・ローマ神話(3) 		
予復習等	【予習】指定された資料を熟読すること 【復習】学んだトピックについて、資料を調べ、理解を深めること		
評価方法	【自学科生の場合】授業姿勢20%、講読課題(1)20%、講読課題(2)20%、期末レポート40% 【他学科生の場合】授業姿勢20%、講読課題(1)20%、講読課題(2)20%、期末レポート40%		
履修条件	英語で書かれた資料をきちんと読もうとする姿勢を持っていること		
教科書	初回の授業で提示します		
参考書	初回の授業で提示します		

科目名	中国文化受容論 Acceptance of Chinese Culture	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	講義
担当者	村中 菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	異文化を受容する際、どのような視点でそれが行われるのかを、日中の古典文学の比較から考える。唐の玄宗と楊貴妃の物語を扱った『唐物語』の内容を、原典となった中国の古典文学作品の内容と比較することで、何が書かれているか、どのような情報が取り入れられているか、逆にどのような情報が取り入れられていないか、またその理由などを理解し、論理的な思考が組み立てられるようになることを目的とする。そこから実生活において、身近にあふれる情報を分析的に見つめ冷静に判断する力を養うことを到達目標とする。		
授業概要	日中の古典文学作品を読み比べる作業から、文化の受容について、作品成立の背景や特徴、作品の狙いや作者の意図などから分析し、ものごとの本質を見出す。具体的には中国の故事（お話）を日本語に翻訳した物語集『唐物語』（12世紀後半成立）に収められた「玄宗皇帝と楊貴妃の語（こと）」をじっくり味わって購読し、そのもととなった中国古典文学作品『長恨歌』・『長恨歌伝』、『楊太真外伝』に表現された楊貴妃像を比較・分析する。そして「なぜそのような表現されているのか」を作者の意図や時代背景などから考える。そのことによって、それぞれの視点から楊貴妃という人物の本質に迫ろうとするものである。 【SDGs：4, 10】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス、『唐物語』の概要 ② 『唐物語』講読【1】 ③ 楊貴妃の魅力についての比較（1） ④ 楊貴妃の魅力についての比較（2） ⑤ 『唐物語』講読【2】 ⑥ 楊貴妃の政治性についての比較（1） ⑦ 楊貴妃の政治性についての比較（2） ⑧ 楊貴妃の政治性についての比較（3） ⑨ 『唐物語』講読【3】 ⑩ 楊貴妃の奔放さについての比較（1） ⑪ 楊貴妃の奔放さについての比較（2） ⑫ 『唐物語』講読【4】 ⑬ 『唐物語』講読【5】 ⑭ 『長恨歌』鑑賞—比較文学的視点から—（1） ⑮ 『長恨歌』鑑賞—比較文学的視点から—（2） ⑯ 定期試験 		
予復習等	毎回、その日に学んだテキストを見直しておくこと		
評価方法	出席状況・受講態度40%、授業時に書いてもらうメモ20%、定期試験40%		
履修条件	なし		
教科書	プリントを配布する		
参考書	必要に応じて配布プリント、映像教材を用いる		

科目名	異文化コミュニケーション Cross-Cultural Communication	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	講義
担当者	小田 麻里名	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	本講義の目的は、英語、フランス語、ドイツ語といった今まで見聞きしてきた外国語を介したり、様々な出来事や意見を通して感じたり見えてきたことが、さらに深く理解することで、伝える伝わるハートフルなコミュニケーション力を身につけることです。		
授業概要	それぞれの考え方を理解し、相手を尊重することと同時に日本人の一人としての文化や自分自身を表現していく大切さも実感してもらいながら、日常生活を通して普段意識されていない部分に、諸問題の解決方法があることに気づいてもらい、生きた、もつともつゆたかなコミュニケーション力を身につけていただきたいので様々な例を紹介しつつ学んでいきます。 【SDGs：4】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① はじめに ② 異文化コミュニケーションを学ぶことの大切さ ③ 新しい発見と気づき ④ 文化とは何か ⑤ 自己開示の大切さ ⑥ 言語コミュニケーションスタイル ⑦ ほめるコミュニケーション ⑧ 形容詞の重要性 ⑨ 自己表現のゆたかさのスタート ⑩ しぐさと対人距離 ⑪ 時間の間と感覚 ⑫ ことわざから見えてくる相違点 ⑬ 共感としてのコミュニケーション ⑭ ジェスチャーと会話 ⑮ 意見を言うって理解することへの道、言葉の力とゆたかさ ⑯ 定期試験 		
予復習等	[予習] 教科書（指定部分）をよく読み自らの主張を言葉にしておく準備 [復習] 講義内容をノートにまとめ自分の意見を論ずる		
評価方法	小課題20% 期末試験80%		
履修条件	ないです		
教科書	異文化コミュニケーションワークブック 矢代京子他著 三修社 978-4-384-01851-6		
参考書	参考書はその都度講義内で指示します		

科目名	英語表象文化	単位数	2
	Culture of English Representation	必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）	科目区分	講義
担当者	鈴木 辰一	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	ウィリアム・シェイクスピアによる劇作品を様々な観点から考察することを通じて、様々な文化事象を解釈することを経験し、解釈という行為を意識しながら行えることを目指します。受講者同士、解釈についての議論を通じて、多様な視点から物事を解釈する姿勢、自らとは異なる視点や解釈を肯定的に受け入れる姿勢を身につけることを目標とします。		
授業概要	この授業では16世紀末～17世紀初頭にかけてイングランドで活躍した劇作家ウィリアム・シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』、『ヴェネスの商人』、『テンペスト』を取り上げます。原作や翻案（原作をもとに新たに作られたもの）の講義を通して、様々な視点から戯曲を眺め、多様な視点からの解釈を試みます。 【SDGs：17】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス／シェイクスピア、表象文化について ② シェイクスピアについて ③ 『ロミオとジュリエット』(1) ④ 『ロミオとジュリエット』(2) ⑤ 『ロミオとジュリエット』(3) ⑥ 『ロミオとジュリエット』(4) ⑦ 『ロミオとジュリエット』(5) ⑧ 『ヴェネスの商人』(1) ⑨ 『ヴェネスの商人』(2) ⑩ 『ヴェネスの商人』(3) ⑪ 『ヴェネスの商人』(4) ⑫ 『ヴェネスの商人』(5) ⑬ 『テンペスト』(1) ⑭ 『テンペスト』(2) ⑮ 『テンペスト』(3) 		
予復習等	【予習】指定された資料を熟読してくること 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、わからないことがあれば図書館等で調べておくこと		
評価方法	【自学科学生の場合】授業姿勢30%、期末レポート70% 【他学科学生の場合】授業姿勢30%、期末レポート70%		
履修条件	英語で書かれた資料をきちんと読もうとする姿勢を持っていること		
教科書	初回の授業で提示します		
参考書	ウィリアム・シェイクスピア『ロミオとジュリエット』、『ヴェネスの商人』、『テンペスト』小田島雄志訳、(白水uブックス、1983)		

科目名	文化交流論	単位数	2
	Cultural Interaction	必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）	科目区分	講義
担当者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	文化交流を文化の接触、文化の受け入れととらえ、日本をはじめアジア各地の文化に大きな影響を与えている仏教がインド、中国、日本でどのように展開したかを理解することを目指す。具体的には、学生が仏教の基礎知識を修得し、仏教の内容について説明できるようになることを目標とする。さらには、仏教の基礎知識を修得することによって日本やアジアの文化に対する理解力を深めることが期待される。		
授業概要	はじめに、仏教が生まれる以前からインドで実践されていたバラモン教について学ぶ。次に、釈迦の生涯、釈迦が悟った真理、人間が苦しむ理由、苦しみを除くための修行法、釈迦以後に発生した大乘仏教の思想（仏陀の種類、心の構造、清らかな心、など）について学ぶ。続いて、中国における仏教の展開として、天台教学、華嚴教学、浄土信仰、禪宗についてとりあげ、また、日本仏教の特色についても学ぶ。 【SDGs：16, 17】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 仏教とは。 ② バラモン教、ウパニシャッド哲学 ③ 釈迦の生涯 ④ 釈迦の悟りの内容 ⑤ 苦しみの由来 ⑥ 修行について。 ⑦ 仏教とバラモン教 ⑧ 原始仏教、部派仏教、大乘仏教 ⑨ 大乘仏教（1）：多くの仏陀（仏陀の種類）、空の思想 ⑩ 大乘仏教（2）：唯識説（心の構造）、如来像（清らかな心）六波羅蜜（修行） ⑪ 中国での仏教（1）：天台教学、華嚴教学 ⑫ 中国での仏教（2）：浄土信仰、禪宗 ⑬ 中国での仏教（3）：禪宗の展開 ⑭ 日本での仏教（1）：奈良仏教、平安仏教 ⑮ 日本での仏教（2）：鎌倉仏教、その他 ⑯ 定期試験 		
予復習等	配布されたプリントを整理し、次の授業時間に使用するプリントの内容を確認しておくこと。授業後は学んだ内容のノート整理を怠らないこと。		
評価方法	レポート50%、定期試験50%		
履修条件	比較宗教学、地域研究概論を合わせて受講することが望ましい。		
教科書	なし。プリントを配付する。		
参考書	『仏教入門』／著・高崎直道／出版・東京大学出版会		

科目名	English Discussion	単位数	1
	English Discussion	必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	コットン ランダル	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	This course will teach students basic skills for giving presentations in English. Students will learn how to develop a spoken presentation, from brainstorming ideas and writing outlines, to using expressions which help to emphasize important points so that an audience can easily understand their message. Practice will also be done in how to effectively deliver a speech using appropriate gestures, posture, and voice inflection. Emphasis will be placed on developing creative presentations with interesting content delivered in effective ways.		
授業概要	Students will become familiar with a variety of topics and presentation performance skills through example dialogues, listening practice, videos, and group discussion. Language activities will be used to increase students ability to talk effectively about the main topics. Presentation skills will begin with the basics then progress to more advanced techniques. After each topic has been practiced and new techniques learned, students will exhibit the skills they have learned by giving presentations in front of the whole class. Presentations will be evaluated both by the teacher and classmates, and feedback given to help students progress and gain confidence quickly. 【SDGs : 4,17】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① Course introduction ② Self introductions ③ A person to admire - Part 1 ④ A person to admire - Part 2 ⑤ A person to admire - Part 3 ⑥ Developing presentation techniques - Part 1 ⑦ Developing presentation techniques - Part 2 ⑧ Presentation #1 ⑨ Travel destinations - Part 1 ⑩ Travel destinations - Part 2 ⑪ Travel destinations - Part 3 ⑫ Creating PowerPoint presentations ⑬ Developing presentation techniques - Part 1 ⑭ Developing presentation techniques - Part 2 ⑮ Presentation #2 ⑯ Written test 		
予復習等	【予習】 Do the textbook activities before coming to class each week. 【復習】 Review the videos to learn good presentation skills.		
評価方法	In-class participation 30%, Homework assignments 20%, Presentations 50%		
履修条件	英語領域以外の希望者は担当教員に必ず相談すること。		
教科書	Present Yourself 2: Viewpoints (2nd ed). Steven Gershon. Cambridge Univ. Press. 2022.		
参考書			

科目名	English Presentation	単位数	1
	English Presentation	必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	コットン ランダル	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	This course will teach students basic skills for giving presentations in English. Students will learn how to develop a spoken presentation, from brainstorming ideas and writing outlines, to using expressions which help to emphasize important points so that an audience can easily understand their message. Practice will also be done in how to effectively deliver a speech using appropriate gestures, posture, and voice inflection. Emphasis will be placed on developing creative presentations with interesting content delivered in effective ways.		
授業概要	Students will become familiar with a variety of topics and presentation performance skills through example dialogues, listening practice, videos, and group discussion. Language activities will be used to increase students ability to talk effectively about the main topics. Presentation skills will begin with the basics then progress to more advanced techniques. After each topic has been practiced and new techniques learned, students will exhibit the skills they have learned by giving presentations in front of the whole class. Presentations will be evaluated both by the teacher and classmates, and feedback given to help students progress and gain confidence quickly. 【SDGs : 4,17】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① Course introduction ② Surveys on people's lifestyles - Part 1 ③ Surveys on people's lifestyles - Part 2 ④ Surveys on people's lifestyles - Part 3 ⑤ Creating and taking surveys ⑥ Developing presentation techniques - Part 1 ⑦ Developing presentation techniques - Part 2 ⑧ Presentation #1 ⑨ Being persuasive - Part 1 ⑩ Being persuasive - Part 2 ⑪ Being persuasive - Part 3 ⑫ Using your voice ⑬ Developing presentation techniques - Part 1 ⑭ Developing presentation techniques - Part 2 ⑮ Presentation #2 ⑯ Written test 		
予復習等	【予習】 Do the textbook activities before coming to class each week. 【復習】 Review the videos to learn good presentation skills.		
評価方法	In-class participation 30%, Homework assignments 20%, Presentations 50%		
履修条件	「English Discussion」を受講をすること。		
教科書	Present Yourself 2: Viewpoints (2nd ed). Steven Gershon. Cambridge Univ. Press. 2022.		
参考書			

科目名	メディアイングリッシュⅡ Media English II	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	藤田 怜史	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>この授業は世界のニュース映像をとおして、総合的な英語能力に加えて国際ニュースへの関心と理解をふかめることを目標とする。具体的な到達目標は以下のとおり。</p> <p>1：受講生はリスニングやスピーキングを含めた総合的な英語能力を向上させることができる。</p> <p>2：受講生は世界のニュースに触れることで、国際的な視野を持ち、異文化に対する関心と理解を深めることができる。</p>		
授業概要	<p>本授業では、アメリカの報道局のニュース映像を利用し、ネイティブの生きた英語に触れることで、リスニングやスピーキング能力を含めた総合的な英語能力の向上を目的とする。また副教材を用いてTOEICなどのポイントについても触れる予定である。関心の持ったニュース（授業で扱ったものに限らない）の内容や感想についてまとめたエッセイを書き、読み合わせやプレゼンテーションを行うなど、英語表現や内容について論評する機会も設けたい。</p> <p>【SDGs：4, 10, 16, 17】</p>		
授業計画	<p>① Unit 1 ② Unit 2 ③ Unit 3 ④ Unit 4 ⑤ mid-term report or exam ⑥ unit 5 ⑦ unit 6 ⑧ unit 7 ⑨ unit 8 ⑩ mid-term report or exam ⑪ unit 9 ⑫ unit 10 ⑬ unit 11 ⑭ unit 12 ⑮ unit 13 ⑯ 定期試験（ないしレポート）</p>		
予復習等	<p>予習：指定されたユニットのテキストを読み、単語を辞書で調べておく 復習：聞き取りなどで聞き取れなかったフレーズを中心に繰り返し聞き、シャドーイングを行う</p>		
評価方法	出席状況・授業態度（30%）、課題（20%）、定期試験（50%）		
履修条件	なし		
教科書	『ABC Newsroom 3』／著：Shigeru Yamane他／金星堂		
参考書	なし。適宜紹介する。		

科目名	メディアイングリッシュⅢ Media English III	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	澤田 真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>VOAのニュース映像を通して、メディア・リテラシーの基礎力を養成することを目的とする。到達目標は、以下である。1) 世界のニュースに触れることで生きた英語に触れ、聴解や読解できる力を身に付ける、2) 現代的な社会問題について必要な情報を収集し、得られた情報を適切に整理・分析できる、3) 国際的な視野を身に付け、異文化に対する理解を深めることができる。</p>		
授業概要	<p>実用的な英語表現を映像とスクリプトを用いた活動を通じて学習し総合的な英語力を培う。視聴覚教材に関連する文法事項と語彙を丁寧に確認することで英語力の充実を図る。また、内容理解だけでなく、定型表現の使い方を確認し、スクリプトで確認した内容の要約も行う。また興味を持ったニュースについて内容や意見をグループで発表する機会を設けたい。受講者には、能動的な参加が求められる。</p> <p>【SDGs：4, 16, 17】</p>		
授業計画	<p>① Introduction ② Unit 1 A Burger for a Fine Dinind Experience ③ Unit 2 Hold Me? ④ Unit 3 Spies are Everewhere ⑤ Unit 4 Makind Paece Through Music ⑥ Unit 5 Glaciers Come,Glaciers Go ⑦ Unit 6 Pickin up Language in the World ⑧ Unit 7 The End of Space Travel ⑨ Unit 8 A Talent Blossoms ⑩ Unit 9 Robot for Everyday Use ⑪ Unit 10 Video Games as a Career ⑫ Unit 11 How the Internet Begin ⑬ Unit 12 Social Networking and Productivity ⑭ Unit 13 The Large Hadron Collider ⑮ Unit 14 Encouraging More Microfinance ⑯ 定期試験（又はレポート）</p>		
予復習等	<p>【予習】Teamsにて予習課題を提出する。 【復習】授業で扱った教材の復習</p>		
評価方法	授業内課題、小テストその他50%、定期試験(又はレポート)50%として総合的に判断する。		
履修条件	なし。		
教科書	VOA News Clip Collection /成美堂		
参考書	適宜指示する。		

科目名	エッセイライティング Essay Writing	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	コットン ランダル	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	The goal of this course is to help students improve their ability to write paragraphs in English. By examining various types of paragraphs written in English, students will learn how to create paragraphs that are well organized and effective for communicating ideas. Students will also develop necessary editing skills for checking and correcting their compositions.		
授業概要	The course will start with the basics of good paragraph writing (according to Western modes of composition). These skills include learning how to write effective topic sentences and create unified paragraphs that have coherent support. Students will practice these composition skills by writing paragraphs about various topics. In addition, grammar and vocabulary exercises will be done in order to help students improve their overall English ability. 【SDGs : 4, 17】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① Course introduction ② What is a composition? ③ Parts of a paragraph ④ The topic sentence ⑤ Supporting sentences ⑥ Subject-verb agreement ⑦ Concluding sentences ⑧ Connecting phrases ⑨ Controlling ideas ⑩ Narrative paragraphs ⑪ Chronological order ⑫ Narrowing ideas ⑬ Supporting details ⑭ Analyzing reasons ⑮ Organizing major points ⑯ Final exam / report due 		
予復習等	<p>【予習】 Study the textbook before coming to class each week.</p> <p>【復習】 Review the lessons to better remember the material covered in class.</p>		
評価方法	出席状況 30%、提出物・宿題 40%、少テスト・定期試験 30%		
履修条件	「パラグラフライティング」を受講すること。		
教科書	Developing Composition Skills: Academic Writing and Grammar (3E). Mary K. Ruetten, Heinle Cengage, 2012.		
参考書	和英・英和辞書を持参すること		

科目名	アカデミックライティング Academic Writing	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	大澤 聡子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	アカデミック・イングリッシュとしての論文の書き方を学修する。学術論文には書き方に一定の形式があり、その形式についての知識は論文を読む場合にも書く場合にも必要不可欠である。本授業は、英語論文を作成するにあたり、最低限必要な基本知識を学ぶ。書式、論文の構成、文献資料の扱い方、引用の仕方、出典の示し方に加え、論文にふさわしい英語表現を理解し、基本事項を満たしたエッセイを書けるようになることを目標とする。		
授業概要	論文とは、ある問題について調査し、検討を重ね、導き出した結論について文章化し、自分の主張を論理的かつ客観的に伝えるものであるが、その書き方には一定の決まりがある。英語論文の決まり事は「書く」場合のみならず、「読む」場合にも役立つ知識である。本授業では論文の書式、構成、文献資料の扱い方、引用の仕方、出典の示し方などの基本事項を多くの例題をとおして学修する。また、論文としてふさわしい英語表現についても学修し、最後に基本事項を満たした短いリサーチペーパーを仕上げる。 【SDGs : 3, 4, 7】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② アカデミック・ライティングの文化 ③ リサーチを始めるにあたって ④ リサーチ・ペーパーの構成 ⑤ 英語で書くために（1） ⑥ 英語で書くために（2） ⑦ 原稿を書く（パラグラフ・ライティングとは） ⑧ 原稿を書く（文章サンプル） ⑨ 論文の体裁（タイトル、書式） ⑩ 引用方法 ⑪ バラフレーズとサマリー ⑫ 引用文献の示し方 ⑬ リサーチ・ペーパーの作成（1） ⑭ リサーチ・ペーパーの作成（2） ⑮ 完成に向けて ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】 指定されたテキストの授業範囲を読み、疑問点をまとめておく。</p> <p>【復習】 重要事項をまとめる。リサーチ・ペーパーのための情報を検索、収集する</p>		
評価方法	出席状況・授業態度20%、課題：30%、定期試験50%		
履修条件	なし		
教科書	『英語アカデミック・ライティングの基礎』／編著：一橋大学英語科／出版：研究社		
参考書	『英語論文の書き方 入門』／著：迫桂、徳永聡子／出版：慶応義塾大学出版会		

科目名	アドバンスリーディング Advanced Reading	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	尾野 理音	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	本授業では、中-上級レベルの英文読解能力の習得を目指す。様々な内容を扱った難易度の高い長文を読み進める。論理展開だけでなく、それぞれの文の構造や文法にも注目して読み進めることで、文法力や記述力の向上も目指す。		
授業概要	様々な話題を二つのセクションに分けて読み進める。比較的難易度の高い文章を扱い、単語・論理展開・文法事項に注目する。授業内でも文を読む時間を確保し、制限時間内で読むことに挑戦する機会を設ける。授業内容の理解が難しいと感じる場合、予習を通じて事前に不明な点を整理しておくこと。 【SDGs：4, 6, 17】		
授業計画	① ガイダンス ② Unit 1, Reading 1A ③ Unit 1, Reading 1B ④ Unit 2, Reading 2A ⑤ Unit 2, Reading 2B ⑥ Unit 3, Reading 3A ⑦ Unit 3, Reading 3B ⑧ 中間試験 ⑨ Unit 4, Reading 4A ⑩ Unit 4, Reading 4B ⑪ Unit 5, Reading 5A ⑫ Unit 6, Reading 5B ⑬ Unit 6, Reading 6A ⑭ Unit 6, Reading 6B ⑮ Review ⑯ 期末試験		
予復習等	【予習】 必要があれば指定された箇所を読んでおく。 【復習】 授業後に、学習した文法事項や重要語句が定着するように復習する。		
評価方法	平常点(授業態度など)20%、小テスト30%、中間試験25%、期末試験25%		
履修条件	なし		
教科書	『Reading Explorer, Third Edition, Level 3, Split 3A』 / 著: David Bohlke, Nancy Douglas, Helen Huntley, Paul MacIntyre, Bruce Rogers / 出版: National Geographic Learning, a Cengage Learning Company		
参考書	なし		

科目名	観光英語 Tourism English	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	佐竹 直喜	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	観光における様々な場面で基本的な英語を理解できる表現できることを目指す。観光英語の基本単語、基本表現、世界の観光事情等の英語表現を学び、自分で表現するために必要な英語運用力の訓練、口頭再現・英作文のアウトプット訓練をし、第三者に正確に伝える力も高める。		
授業概要	① 指定のテキストを使い、観光英語に関する基本的な英語表現・英単語をインプットする。 ② 自分で表現するために必要な英語運用力の訓練、口頭再現・英作文のアウトプット訓練をし、第三者に正確に伝える力も高める。 ③ 上記の学習を基に、岐阜の観光について英語で発表し、英語プレゼン力を高める。 【SDGs:4, 9, 17】 【岐阜学関連の授業回：②～⑮】		
授業計画	① オリエンテーション ② Unit1 ③ Unit2 ④ Unit3 ⑤ Unit4 ⑥ Unit5 ⑦ Unit6 ⑧ Unit7 ⑨ Unit8 ⑩ Unit9 ⑪ Unit10 ⑫ Unit11 ⑬ Unit12 ⑭ Unit13 ⑮ まとめ		
予復習等	・指定テキスト、配布資料を授業内外で何度も読み込む。 ・観光英語の表現・英単語を覚え、日頃から運用できる練習をしておく。		
評価方法	授業参加状況40%、発表等60%		
履修条件			
教科書	実用観光英語 一改訂新版— Travel English at Your Fingertips -Revised Edition- (成美堂)		
参考書			

科目名	英語のしくみⅡ English Grammar Ⅱ	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	講義
担当者	大澤 聡子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	コミュニケーションの多くは「ことば」を媒介として行われる。したがって「ことば」を深く理解することがコミュニケーションの理解につながる。本授業では英文法の理解を通して英語コミュニケーション能力の向上につなげることを目的とする。特に、これまでに学修した英文法を単なる知識としてではなく、①コミュニケーションに使える文法として理解し、②英語の感覚を身につけることを目標とする。		
授業概要	本授業では、英語学修者からコミュニケーションに「使える」実用的な文法書として定評のあるGrammar in Useを使用し、高校までの英文法を復習すると同時に、多くの実用的な用例を見ながら、自然な文脈や会話の中での使用法を理解する。テキストは平易な英語で解説され、練習問題も全て英語で書かれているものを使用するため、毎回の予習が求められる。授業ではテキストの文法解説に加え、英語という言葉の「本質的なしくみ」について、さらに掘り下げた解説を行う。 【SDGs：4】		
授業計画	① ガイダンス ② Passive (1) 受動文 ③ Passive (1) 受動文 ④ Gerund and Infinitive (1) 動名詞と不定詞 ⑤ Gerund and Infinitive (2) 動名詞と不定詞 ⑥ Gerund and Infinitive (3) 動名詞と不定詞 ⑦ Perceptual Verb 知覚動詞 ⑧ Review ⑨ Articles and Nouns (1) 冠詞と名詞 ⑩ Articles and Nouns (2) 冠詞と名詞 ⑪ Singular and Plural 単数形と複数形 ⑫ Existential Sentence 存在文 ⑬ Some and Any SomeとAny ⑭ -ing and -ed Phrases -ing句と-ed句 ⑮ Prepositions 前置詞 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】テキストの授業範囲を読み、疑問点をまとめておく。 【復習】重要事項をまとめる。		
評価方法	出席状況・授業態度30%、定期試験70%		
履修条件	「英語のしくみⅠ」を履修していることが好ましい。		
教科書	Grammar in Use Intermediate / Raymond Murphy / Cambridge University Press		
参考書	授業で指示する。		

科目名	英米文学 British and American Literature	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）	科目区分	講義
担当者	鈴木 辰一	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	古英語時代～現代にいたるイギリス文学、アメリカ文学の歴史を概観することによって、英米文学を研究する上で最低限知っておくべき知識を得ることを目的とします。現代も広く読まれている作家とその作品についての知識を得ることにより、英語圏（特に英米）の人々と共通の文化的な知識を身につけ、コミュニケーションを取る際に間接的に役立てられるようにします。		
授業概要	上の到達目標を達成すべく、この授業では古英語の時代から現代に至るまでの英米文学の歴史を概観します。授業では、各時代の時代背景や代表的な作家の作品とその特徴などについての講義を行います。時間の許す限り、実際に文学作品の抜粋を読みながら具体的な形で知識を身につけていきます。また、授業外の課題として、3冊以上の文学作品を読み、その概要などをBook Reportとしてまとめて提出することを課します。 【SDGs：17】		
授業計画	① ガイダンス／イギリス文学①ジェフリー・チャーサー他 ② イギリス文学②ウィリアム・シェイクスピア他 ③ イギリス文学③ジョン・ミルトン他 ④ イギリス文学④ダニエル・デフォー他 ⑤ イギリス文学⑤ウィリアム・ワーズワス他 ⑥ イギリス文学⑥チャールズ・ディケンズ他 ⑦ イギリス文学⑦トマス・ハーディー他 ⑧ イギリス文学⑧ヴァージニア・ウルフ他 ⑨ イギリス文学⑨カズオ・イシグロ他 ⑩ アメリカ文学⑩ナサニエル・ホーソーン他 ⑪ アメリカ文学⑪マーク・トウェイン他 ⑫ アメリカ文学⑫アーネスト・ヘミングウェイ他 ⑬ アメリカ文学⑬J・D・サリンジャー他 ⑭ アメリカ文学⑭アーサー・ミラー他 ⑮ アメリカ文学⑮トマス・ピンチオン他		
予復習等	【予習】指定された箇所の資料を読んでくること 【復習】授業で扱った作家やその作品について調べ、作品を読むこと		
評価方法	【自学科生の場合】授業姿勢25%、読書レポート75% 【他学科生の場合】授業姿勢25%、読書レポート75%		
履修条件	英語で書かれた資料をきちんと読もうとする姿勢を持っていること		
教科書	初回の授業で提示します		
参考書	初回の授業で提示します		

科目名	中国語（会話） Chinese (Conversation)	単位数	1
		必選区分	必修（中国語重点の場合）
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	王 張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>本授業は中国語中級レベル向けの授業であり、旅行やビジネスに必要な基礎会話能力を身につけることを目的とする。テキストのほかに、流行りの音楽や動画を視聴することで、より自然な中国語に触れてもらう。中国語の特徴である声調を意識しながら、単語や短文の正しい発音やリスニング力の向上を目指し、実践的な練習を行うことで、簡単な会話ができることを目標とする。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：トヨタ自動車関連企業に10年間勤務（海外出向経験あり）。その後、中国国内テーマパークの水族館部門にて、副館長を5年間勤め、運営に携わった】 テキストに沿って、発音練習や文法の説明、リスニングを中心に行う中で、受講者に発音の実践や意見を求める場面がある。受講者が中国語学習で難しいと感じる点は、バイリンガルの実務経験者として、時間をかけて説明する。観光とビジネスに使う会話を中心に授業を組み立て、受講者一人ずつ発音しながら、リアルな会話力を身につける。中国系特論Iと合わせて履修することで、さらなる上達が期待できる。 【SDGs：10, 16】</p>		
授業計画	<p>① 発音の復習 ② 第2課 中国方言多，民族也多。 ③ 第2課の文法と練習 ④ 第3課 坐地铁去吧 ⑤ 第3課の文法と練習 ⑥ 第4課 用手机上网查查。 ⑦ 第4課の文法と練習 ⑧ 第5課 我也想去锻炼锻炼。 ⑨ 第5課の文法と練習 ⑩ 第6課 你弹的古筝太好听了！ ⑪ 第6課の文法と練習 ⑫ 第7課 学习中文写作 ⑬ 第7課の文法と練習 ⑭ 第8課 学习中文写作 ⑮ 復習 ⑯ 定期試験</p>		
予復習等	<p>【予習】各課の文法を予習して、その説明を理解しておくこと。 【復習】前回習った内容を復習し、毎回授業の最後にリスニングの練習を行う</p>		
評価方法	出席状況30%、小テスト30%、定期試験40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	なし		

科目名	観光中国語 Tourism Chinese	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期） [岐阜学関連科目]	科目区分	演習
担当者	鄭 躍慶	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>観光と最も関連する内容を題材とした各本文を正しく綺麗に読めることをめざし、その文章に出てくる基本単語、熟語、文法の要点など留意しながら読み、書き、暗記することによって、中国語の理解力を高めていく。また各課の内容によって中国語や中国と日本の社会に関する相互理解をさらに深めて行くことは本講義の目的と到達目標である。更に、学生たちが中国語に対して、興味・関心を持つように促す。</p>		
授業概要	<p>本授業は正しい発音で観光と関連する日常会話ができることを目標とする。授業を中心としながら、個人指導も行う。具体的に文法、本文などの解釈の後、個別に発音のチェック及び練習問題などを通じて授業を行う。一回一課のペースで進めていく予定である。基本表現を繰り返す練習することによって身につけて、コミュニケーション能力を高めていく。そして、問題練習を通じて学習内容を定着させる、しかも視聴覚資料を使って、中国や中国と日本の文化に関する相互理解を深める。 【SDGs：4】 【岐阜学関連の授業回：⑮】</p>		
授業計画	<p>① ガイダンス 第1課 自分・家族 ② 第2課 家 ③ 第3課 好きなこと ④ 第4課 SNS ⑤ 第5課 休日 ⑥ 第6課 旅行の思い出 ⑦ 第7課 中国への興味 ⑧ 第8課 東京案内 ⑨ 第9課 交通事情 ⑩ 第10課 買い物事情 ⑪ 第11課 日本の文化 ⑫ 第12課 サブカルチャー ⑬ 第13課 食事 ⑭ 第14課 相互理解 ⑮ 第15課 岐阜の観光について ⑯ 定期試験</p>		
予復習等	<p>（予習）授業前に単語、文法、本文を予習する。（復習）授業後に習った内容を復習することを少なくとも一時間程度に行うこと。</p>		
評価方法	授業への参加状況：授業の参加態度20%、小テスト20%、定期試験60%。（基本的に自学科と他学科の学生に対して同じ基準を評価する）		
履修条件	なし		
教科書	[2年めの伝える中国語] 白水社 著者：及川淳子（2300円+税）		
参考書	授業中で随時に紹介する。		

科目名	現代中国論 Contemporary Chinese Studies	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）	科目区分	講義
担当者	王 張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	日本と中国は“一衣帯水”という言葉があるように、非常に身近な存在である。また、国は引越しができないため、隣国であるゆえに良好な関係を築かなければならない。しかし、両国の制度や価値観が異なっており、文化も似て非なるものと言える。そのため現代中国を知る前に、まずは中国の歴史を振り返る必要がある。本授業は昨今の中国を古代中国や日本と比較分析し、現代中国人の価値観がどのように形成されたかを理解する。		
授業概要	【担当者の実務経験：トヨタ自動車関連企業に10年間勤務（海外出向経験あり）。その後、中国国内テーマパークの水族館部門にて、副館長を5年間勤め、運営に携わった】 現代中国社会の政治、経済、教育が一般国民生活へ与える影響を、“社会主義”、“一党独裁”、“改革開放”、“愛国主義教育”、“一人っ子政策”、“共同富裕”、“共享経済”、などのキーワードから時事解説し、日本と比較することで両者の同異を理解する。 【SDGs：5, 8, 9】		
授業計画	① 講義の目的・到達目標、進め方、学習方法 ② 王朝中央集権の歴史(秦の始皇帝) ③ 王朝中央集権の歴史(前漢・後漢) ④ 王朝中央集権の歴史(三国志) ⑤ 王朝中央集権の歴史(元・モンゴル帝国) ⑥ 儒教が現代社会に与える影響 ⑦ 日本はどのように先進国になったか ⑧ 中国と台湾 ⑨ “新中国”の成立 ⑩ 共同富裕とは ⑪ 次世代エネルギー ⑫ 田国の産業革命1.0、2.0と3.0 ⑬ 中国はどこへ向かうのか ⑭ グループ発表 ⑮ グループ発表 ⑯ グループ発表		
予復習等	【予習】日頃のニュースやトレンドに関心を持つこと。 【復習】疑問に感じたことを調べたり、teamsにて質問や意見交換などを行う		
評価方法	授業への参加度60%、グループ発表40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	使わない。パワーポイントを使用する		
参考書	なし		

科目名	韓国語（会話） Korean (Conversation)	単位数	1
		必選区分	必修（韓国語重点の場合）
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	初級韓国語（Ⅰ・Ⅱ）、「韓国語（文法・読解）」の学習の上に、韓国語の基本的な文法事項のさらなる習得と、韓国語による基本的な表現がさらに理解できるようになることを目指す。具体的には、学生が韓国語の基本的な表現をさらに覚え、自ら発話することができ、また他者が発話した文章を聞き取り、書き取ることができるようになることを目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：在外公館で翻訳、通訳の経験あり】配布するプリントの学習内容にしたがって授業を進める。翻訳、通訳の経験から日本人が習得に困難を感じると思われる点については時間をとって説明する。受講者には韓国語で発話してもらったり、質問に答えてもらったりするので、積極的に授業に参加してほしい。これまで学んだ文法事項をできるだけ使って発話に挑戦することを期待する。 【SDGs：4】		
授業計画	① -(으)로, -까지, -(으)니까 ② -아/어/여서, -에서-까지 ③ -부터-까지, 르不規則変化 ④ -에게, -한테, -께, -군요, -는군요 ⑤ -아요/-어요/-어요, -는/(으)ㄴ/(으)ㄹ名詞 ⑥ ㄹ不規則変化, ㅂ不規則変化, ㅌ不規則変化 ⑦ -기 때문에, -때문에, -(으)ㄹ 것이다 ⑧ 動詞는데, 形容詞ㄴ/은데, 名詞인데 ⑨ -을 것 같다, -는 것 같다, -ㄴ 것 같다, ⑩ ㅎ不規則変化, -지 못하다, -(으)면, -(으)ㄹ 수 있다/없다 ⑪ -(으)러 가다/오다, -전에, -마다 ⑫ -아/어/여 보다, -았/였/였으면 하다 ⑬ -아/어/여 자다, -(이)나, -기로 하다 ⑭ -는 동안, -고요 ⑮ -(으)려고, -고요 ⑯ 定期試験		
予復習等	プリントの中から次回の授業で学ぶ範囲の単語の意味を調べ、例文を読んでおくこと。毎回授業内容の復習に努めること。		
評価方法	定期試験50%、出席状況及び授業態度50%		
履修条件	「初級韓国語Ⅰ・Ⅱ」「韓国語（文法・読解）」の単位を修得していること。		
教科書	なし。プリントを配付する。		
参考書	「初級韓国語Ⅰ・Ⅱ」で使用した教科書		

科目名	観光韓国語 Tourism Korean	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	演習
担当者	孫 ミギョン	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>韓国旅行に必要な多様な表現を学び、観光関係の韓国語が自由に話せて、韓国旅行に支障がないことを目指す。</p> <p>さらに、この講義で学んだ表現を応用して岐阜の観光地情報と魅力を韓国語で提示・説明・対話できるようになることを目標とする。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：公的機関等での通訳、翻訳の経験あり】</p> <p>海外旅行に必要な韓国語表現を学び、コミュニケーション活動を定着させることで、韓国語表現を聞き取ったり話したりすることができる。授業では会話力を伸ばしていくために、クラス内でペアで会話練習などを行う。</p> <p>【SDGs：4, 9, 17】 【岐阜学関連の授業回：⑭, ⑮】</p>		
授業計画	<p>① ガイダンス</p> <p>② 第1課 こちらへどうぞ</p> <p>③ 第2課 ウォンに換えてください</p> <p>④ 第3課 まっすぐ行くと4番出口に出ます</p> <p>⑤ 第4課 いま部屋に入れますか</p> <p>⑥ 第5課 自分で買わなきゃいけないんですか</p> <p>⑦ 第6課 どこで何時に会いましょうか</p> <p>⑧ 第7課 二人ともかわいいでしょ？</p> <p>⑨ 第8課 辛いものも食べられる？</p> <p>⑩ 第9課 辛さ控えめにしてもらえますか。</p> <p>⑪ 第10課 一度も聞いたことないじゃないですか</p> <p>⑫ 第11課 3万5千ウォンにしたららっちゃだめですか</p> <p>⑬ 第12課 どうしても遅くなりそうです</p> <p>⑭ 学生発表：韓国語で岐阜案内①</p> <p>⑮ 学生発表：韓国語で岐阜案内②</p> <p>⑯ 定期試験</p>		
予復習等	<p>【予習】 次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。</p> <p>【復習】 毎回授業の復習に努めること。</p>		
評価方法	発表及び提出物20%、小テスト30%、定期試験50%(授業回数の3分の1をこえて欠席した場合は評価の対象にならない)		
履修条件	「初級韓国語(I・II)」、「韓国語会話I」の単位を履修していること		
教科書	『コミュニケーション韓国語 聞いて話そうII』/著：長谷川由起子、張ユンヒョン/出版社：白帝社		
参考書	なし		

科目名	現代韓国論 Contemporary Korean Studies	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）	科目区分	講義
担当者	孫 ミギョン	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>この授業では「韓流」やK-popにとどまらず、韓国の社会や文化についての入門的な内容を学び、韓国における多様な分野の文化に関する知識を習得することを目標とする。</p>		
授業概要	<p>本講義では日本と最も近い韓国の文化や社会について学習する。現代韓国の時間的範囲を1948年8月15日の大韓民国樹立からとして授業をすすめていく。韓国の政治的変化、経済政策や文化政策について学び、韓国に関連する知識を身に付ける。さらに、ケーススタディを通じてより理解を深めていく。授業内容は受講生の韓国語の習熟度に応じて変更する場合がある。</p> <p>【SDGs：4, 17】</p>		
授業計画	<p>① ガイダンス</p> <p>② 韓国学の領域と範囲</p> <p>③ 現代韓国の政治的変化と経済の発展段階</p> <p>④ 韓国における文化政策の歴史①</p> <p>⑤ 韓国における文化政策の歴史②</p> <p>⑥ 韓国における日本文化開放</p> <p>⑦ 日本における韓流現象</p> <p>⑧ K-POP史①</p> <p>⑨ K-POP史②</p> <p>⑩ K-コンテンツから見る韓国社会①：「愛の不時着」</p> <p>⑪ K-コンテンツから見る韓国社会②：「梨泰院クラス」</p> <p>⑫ ドラマ「パチンコ」から見る在日韓国・朝鮮人、その移住と歴史①</p> <p>⑬ ドラマ「パチンコ」から見る在日韓国・朝鮮人、その移住と歴史②</p> <p>⑭ 学生発表：K-コンテンツ分析①</p> <p>⑮ 学生発表：K-コンテンツ分析②</p> <p>⑯ 定期試験</p>		
予復習等	<p>【予習】 新聞やテレビ・インターネットのニュースなどで、韓国に関するテーマに関心を向けること</p> <p>【復習】 授業内容を振り返り、要点を整理すること</p>		
評価方法	出席状況30%、授業態度20%、定期試験(レポート)50%(授業回数の3分の1をこえて欠席した場合は評価の対象にならない)		
履修条件	授業は基本的に韓国語で行う。		
教科書	なし		
参考書	なし		

科目名	「やさしい日本語」作文 Plain Japanese (Composition)	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	村中 菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	主に日本在住の外国籍の方とのコミュニケーション手段として、「やさしい日本語」の意味や社会において果たす役割などを理解した上で、場面や目的に応じた表現を工夫できるようになることを授業目的とする。その上で、場面や相手に応じて、より分かりやすく伝えるために、普段から難解な文章をやさしくかみ砕いて変換しようとする姿勢を身につけられようになること、文章表現を磨くと同時に、話し方や応対の上でも相手の身になった振る舞いの必要性を理解し、実践できるようになることを到達目標とする。		
授業概要	日本語を母語としない相手に分かりやすく伝えるための「やさしい日本語」を実践的に習得する。「やさしい日本語」を用いて、自分の言いたいことを相手に分かりやすく表現するために、語彙の選択や表現方法の工夫なども視野に入れ、グループで各場面に応じた発話を考えて発表する。自分が何を伝えたいか、伝えるべき重要な情報は何かを整理すると同時に、相手が何を知りたいか、何を求めているかを思いやる力を磨く。語彙を増やすことや作文の技術だけでなく、相手に対するやさしくあたたかい姿勢や、他者を配慮する心も磨く。 【SDGs : 4, 10】		
授業計画	① ガイダンス、「やさしい日本語」への知識を高める ② 「やさしい日本語」以前に必要な姿勢とは ③ 寄り添う気持ちと求められる態度—話の聞き方演習— ④ 「やさしい日本語」の基本（1）、作文演習（1） ⑤ 「やさしい日本語」の基本（2）、作文演習（2） ⑥ 「やさしい日本語」の基本（3）、作文演習（3） ⑦ 「やさしい日本語」の基本（4）、作文演習（4） ⑧ 「やさしい日本語」の応用（1）、作文演習（5） ⑨ 「やさしい日本語」の応用（2）、作文演習（6） ⑩ 「やさしい日本語」の応用（3）、作文演習（7） ⑪ 「やさしい日本語」のポイント（1）作文演習（8） ⑫ 「やさしい日本語」のポイント（2）作文演習（9） ⑬ 「やさしい日本語」のポイント（3）作文演習（10） ⑭ 「やさしい日本語」作文演習（11） ⑮ 「やさしい日本語」作文演習（12） ⑯ 定期試験		
予復習等	毎回、その日に学んだテキストを見直しておくこと		
評価方法	出席状況・受講態度40%、演習・発表への取り組み30%、定期試験30%		
履修条件	なし		
教科書	『「やさしい日本語」で伝わる！公務員のための外国人対応』／岩田一成他／学陽書房		
参考書	必要に応じて配布プリント、映像教材を用いる		

科目名	地域実践演習Ⅰ [国際] Seminar on Regional Activities I (Graduation Thesis/Works I)	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	各担当教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	各担当教員による指導のもと、学生自らが問題意識を持って、各自が関心を持つテーマを研究し、研究成果につなげる。学生自らが調査を行って知識を身につけるとともに、問題を発見し、分析する能力を養う。あわせて、発表の仕方や論文・レポートの書き方も学ぶ。これらを通じて、課題発見能力、問題分析・解決能力、計画遂行能力、成果報告の能力を身につけることを目指す。		
授業概要	各担当教員によるゼミ（演習）形式で実施する。学生は、1年次後期に行われたゼミ説明会後に配属が決定した各担当教員のゼミで学ぶ。各ゼミの授業概要については、ゼミ説明会で配布された資料に記載された授業内容を確認しておくこと。 【SDGs : 10, 16, 17】		
授業計画	各担当教員が示す授業計画による。		
予復習等	毎回、各担当教員の指導に従って予習、復習に努めること。		
評価方法	各担当教員の提示による。		
履修条件	2年生に進級するのに必要な合計単位数が取得できていること。		
教科書	各担当教員が提示する。		
参考書	各担当教員が提示する。		

科目名	地域実践演習Ⅱ [国際] Seminar on Regional Activities Ⅱ (Graduation Thesis/ Works Ⅱ)	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科 (2年後期)	科目区分	演習
担当者	各担当教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	前期の「地域実践演習Ⅰ」を受けて、各担当教員による指導のもと、引き続き学生自らが問題意識を持って、各自が関心を持つテーマを研究し、研究成果につなげる。学生自らが調査を行って知識を身につけるとともに、問題を発見し、分析する能力を養う。あわせて、発表の仕方や論文・レポートの書き方も学ぶ。これらを通じて、課題発見能力、問題分析・解決能力、計画遂行能力、成果報告の能力を身につける。		
授業概要	各担当教員によるゼミ(演習)形式で実施する。学生は、前期の「地域実践演習Ⅰ」に続いて各担当教員のゼミで学ぶ。各ゼミの授業概要については、1年次後期に実施したゼミ説明会で配布された資料に記載された授業内容を確認しておくこと。 【SDGs : 10, 16, 17】		
授業計画	各担当教員が示す授業計画による。		
予復習等	毎回、各担当教員の指導に従って予習、復習に努めること。		
評価方法	各担当教員の提示による。		
履修条件	各担当教員の提示による。		
教科書	各担当教員が提示する。		
参考書	各担当教員が提示する。		

科目名	海外言語・文化演習(英語圏) Overseas Language and Culture Program (English-speaking Countries)	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科 (1・2年全期)	科目区分	演習
担当者	各担当教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	これまで学んだ英語の能力を基に、英語圏の大学で大学教員による授業を受講しながら、聞く、話す、読む、書くの4技能をさらに伸ばすことを目標とする。あわせて、学生各自が身につけた英語を使って英語圏の文化、社会を観察、体験し、各自の視野を広め、異なる文化を持つ人々との共存を目指す思考を養うことを目標とする。		
授業概要	夏季もしくは春季休暇中に10日間程度、英語圏での研修を予定している。研修先の大学において、ネイティブスピーカーの現地教員による英語および英米文化の授業を受けるとともに、現地学生との交流活動も行う。世界遺産や博物館などの見学、ホームステイも予定している。現地への出発前にオリエンテーションを実施し、帰国後は課題の提出を求める。現地での授業や活動のほかに、出発前のオリエンテーションへの出席、帰国後の課題提出を満了した者に単位取得を認める。 【SDGs : 10, 17】		
授業計画	① 出発前にオリエンテーションを実施する(数回) ② 現地研修校における語学・文化演習 ③ 帰国後、課題提出		
予復習等	各オリエンテーションの後、その内容を確認し、出発のための準備に怠らないこと。研修先では真面目な態度で臨むこと。		
評価方法	研修での授業や活動への参加態度50%、帰国後の課題50%		
履修条件	初回のオリエンテーションで指示する。		
教科書	なし(現地研修先での指定教科書がある場合もある)		
参考書	オリエンテーションで指示する。		

科目名	海外言語・文化演習（中国語圏） Overseas Language and Culture Program (Chinese-speaking Countries)	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1・2年全期）	科目区分	演習
担当者	各担当教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	授業で学んだ中国語の能力を基に、中国語圏の大学で大学教員による授業を受講しながら、聞く、話す、読む、書くの4技能をさらに伸ばすことを目標とする。あわせて、学生各自が身につけた中国語を使って中国語圏の文化、社会を観察、体験し、各自の視野を広め、異なる文化を持つ人々との共存を目指す思考を養うことを目標とする。		
授業概要	夏季休暇中に8～10日間程度、中国語圏での研修を予定している。研修先の大学において、ネイティブスピーカーの現地教員による中国語および中国文化の授業を受けるとともに、現地学生との交流活動も行う。世界遺産や博物館などの見学も予定している。現地への出発前にオリエンテーションを実施し、帰国後は課題の提出を求める。現地での授業や活動のほかに、出発前のオリエンテーションへの出席、帰国後の課題提出を満たした者に単位取得を認める。 【SDGs：10,17】		
授業計画	① 出発前にオリエンテーションを実施する（数回） ② 現地研修校における語学・文化演習 ③ 帰国後、課題提出		
予復習等	各オリエンテーションの後、その内容を確認し、出発のための準備に怠らないこと。研修先では真面目な態度で臨むこと。		
評価方法	研修での授業や活動への参加態度50%、帰国後の課題50%		
履修条件	初回のオリエンテーションで指示する。		
教科書	なし（現地研修先での指定教科書がある場合もある）		
参考書	オリエンテーションで指示する。		

科目名	海外言語・文化演習（韓国） Overseas Language and Culture Program (Korea)	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1・2年全期）	科目区分	演習
担当者	各担当教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	授業で学んだ韓国語の能力を基に、韓国の大学で大学教員による授業を受講しながら、聞く、話す、読む、書くの4技能をさらに伸ばすことを目標とする。あわせて、学生各自が身につけた韓国語を使って韓国の文化、社会を観察、体験し、各自の視野を広め、異なる文化を持つ人々との共存を目指す思考を養うことを目標とする。		
授業概要	夏季休暇中に8～10日間程度、韓国での研修を予定している。研修先の大学において、ネイティブスピーカーの現地教員による韓国語および韓国文化の授業を受けるとともに、現地学生との交流活動も行う。世界遺産や博物館などの見学も予定している。現地への出発前にオリエンテーションを実施し、帰国後は課題の提出を求める。現地での授業や活動のほかに、出発前のオリエンテーションへの出席、帰国後の課題提出を満たした者に単位取得を認める。 【SDGs：10,17】		
授業計画	① 出発前にオリエンテーションを実施する（数回） ② 現地研修校における語学・文化演習 ③ 帰国後、課題提出		
予復習等	各オリエンテーションの後、その内容を確認し、出発のための準備に怠らないこと。研修先では真面目な態度で臨むこと。		
評価方法	研修での授業や活動への参加態度50%、帰国後の課題50%		
履修条件	初回のオリエンテーションで指示する。		
教科書	なし（現地研修先での指定教科書がある場合もある）		
参考書	オリエンテーションで指示する。		

科目名	産業・地域振興人材研修 Human Resource Training for Industrial and Regional Development	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1・2年全期）	科目区分	演習
担当者	各担当教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	自治体や企業、観光施設などでの研修を通じて、地域の発展のための課題への取り組みを体験するとともに、職業意識を高める。社会で必要とされている能力について考え、研修後の学習意欲に結びつける。		
授業概要	自治体や企業、観光施設などで研修を受ける。長期休暇を利用した研修が望ましい。単位の認定には4日以上研修期間が必要であり、また、所定の研修期間を完了すること、研修日誌を提出すること、研修後の研修レポートを提出することを単位認定の条件とする。 【SDGs : 8】		
授業計画	<p>実施の過程はおおよそ次のように予定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 事前ガイダンス ② 研修を希望する学生は、希望研修先を進路支援委員の教員又は担当の教員に伝える。 ③ 学生は研修登録を行う。 ④ 研修実施の決定 ⑤ 研修。研修期間中、学生は研修日誌を作成する。 ⑥ 研修終了後、研修日誌と研修レポートを進路支援委員の教員又は担当の教員に提出する 		
予復習等	研修先での研修内容について研究する。研修中は、研修日誌を作成し、翌日の研修に備える。		
評価方法	研修日誌、研修レポートを中心に評価する。		
履修条件	誠実に研修に臨むこと		
教科書	なし		
参考書	なし		

科目名	異文化理解と社会の変化 Intercultural Understanding and Social Shift	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（1年後期）【GDSC科目】	科目区分	講義
担当者	松浦 康之・長谷川 旭・神谷 勇毅	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	異文化とは国際だけではなく、文化や言語、地域差といった様々な背景の違いを指している。生成AI（人工知能）など時代の変化が激しい現代において、社会も多様化・複雑化している。そのため、異文化を学んだり、視野を広げたり、他者の視点に立脚して考えることは重要となる。そこで、本講義では、文化や価値観の違いに触れながら、これからの時代に必要とされる人材やグローバルゼーションについて考えていく。これによって、視野を広げることと異文化に対する理解を持つことを目標とする。		
授業概要	現代社会において、全員が同じ発想と内容を持つことは様々な変化に対する脆弱性が高くなると言える。また、これからの時代、従来の延長線や一つの専門領域だけで、社会課題の解決や新しい価値の創造は困難であるとも言える。本講義では、多様な価値を理解し、多様な対応ができることを目指している。そのため、本講義では知識を学ぶだけではなく、共に考えることによって、様々な背景や価値観を持つ重要性や多面的な視野を養う。また、実例なども取り上げながら、多様性の理解やその必要性について学ぶ。本講義はグローバル人材海外演習（隔年開講）の予習の要素も含むが、内容は独立しており、グローバル人材海外演習に参加しない学生も履修可能である。なお、本講義は集中講義（不定期開講）であるため、授業計画であげた項目の順序や内容の一部が変更になる場合もある。 【SDGs : 4, 9, 16】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス・異文化理解とは ② タイの基礎知識 ③ 日本との違いや難しさ ④ 異文化理解を考える（1）事例紹介（国境、戦争、分断など） ⑤ 異文化理解を考える（2）事例紹介（異文化、見知らぬ国々など） ⑥ 異文化理解と社会の変化を改めて知る・考える ⑦ 異文化理解を考える（3）プレゼン ⑧ まとめ 		
予復習等	【予習】ニュースに関心を持ち、未知のキーワードや内容を調べる。 【復習】講義で取り扱った話題について自分で調べ、質疑応答や発表の準備をする。		
評価方法	授業態度30%、レポート40%、プレゼン30%		
履修条件	なし。ただし、1年前期に開講される「グローバルゼーション論」（国際コミュニケーション学科、他学科専門科目）を受講していることが望ましい。		
教科書	なし。		
参考書	必要に応じてプリントを配布する。		

科目名	クリティカル・シンキング Critical Thinking	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（2年前期）【GDSC科目】	科目区分	講義
担当者	長谷川 旭・松浦 康之・神谷 勇毅	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	現代において、気候変動の問題やCOVID-19の問題など、特定の国・地域だけでは対応することが難しい複合的な課題に直面している。人工知能（AI）においても、国際的な競争のみならず、そのリスクに関して、国際的なルール作りも議論されている。こうした状況において、これまで以上に異なる分野や国際間の相互理解が求められている。そこで、本講義では、広い視野から学問に対する興味・関心を喚起するとともに、その関連性・横断性を学ぶことで、柔軟な思考力と洞察力を兼ね備えるための素養を涵養する。		
授業概要	この授業は、講義、ディベートやディスカッション、発表などを通じて実践的な学びを提供します。グローバル社会において必要とされるスキルや知識、特にグローバル人材としての役割や能力を理解し、問題解決するために必要な要素について学ぶ。 【SDGs：4,9】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① クリティカル・シンキングの前提知識 ② 異文化間能力について改めて考える。 ③ 国際的な課題、これからの時代を考える ④ 問題解決・議論の手法 ⑤ グローバル人材に必要とされる知識や能力(1)（講義） ⑥ グローバル人材に必要とされる知識や能力(2)（議論） ⑦ グローバル人材に必要とされる知識や能力(3)（発表） ⑧ まとめ 		
予復習等	<p>【予習】 グローバル人材に関連するニュースなどについて、興味をもって主体的に情報収集しておくこと</p> <p>【復習】 授業内容を振り返り、要点を整理すること。</p>		
評価方法	初回の授業で各担当教員が提示する。		
履修条件	なし。 ※ただし、1年後期に開講される「異文化理解と社会の変化」を受講していることが望ましい。		
教科書	なし、授業内で資料配布を行う。		
参考書	なし。		

科目名	地域データ分析 Introduction to Regional Data Analysis	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（2年前期）【GDSC科目】	科目区分	講義
担当者	神谷 勇毅・長谷川 旭・松浦 康之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	「地域課題」と聞くと、ある地域が抱える何かしらの課題だろうというイメージを持つと思う。課題としたものは、果たして本当に課題なのか。漠然と見る課題もあれば、エビデンスに基づき提示できる課題もあるだろう。本授業では、データ入手から、データ分析、データの裏を語る地域課題について取り扱う。様々な地域において公的なデータを基にした地域理解、地域分析に及ぶ考え方を学ぶ。		
授業概要	本授業では、地域課題を裏付ける公表データ、地域発見に繋がる公表データの検索、入手したデータの分析と発表、他者の発表を聞いての学び、質疑などの活動を通じ、課題発見、課題解決に結びつく提案力を身につける。 【SDGs：4】 【岐阜学関連の授業回：①, ②, ③, ④, ⑤, ⑥, ⑦, ⑧】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① イントロダクション 「地域課題」を知る ② 地域資料の入手、資料は1つか複数か？ ③ 入手資料から一何を見るか？何をみたいか？ ④ 地域資料からの分析と発表準備 ⑤ 分析開示（発表） 発表を基とした議論 ⑥ 分析の振り返りーデータ再分析 見たものは「適当」であったか？ ⑦ 再分析と最終発表準備 ⑧ 最終報告 		
予復習等	<p>【予習】 地域課題へ関心に向ける</p> <p>【復習】 日常生活で目にする様々と地域課題とを結びつけ考察する</p>		
評価方法	初回の授業で各担当教員が提示する。		
履修条件	なし		
教科書	なし 必要に応じて授業内で資料を配布する		
参考書	なし		

科目名	人間知能と人工知能	単位数	1
	Human Intelligence and Artificial Intelligence	必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（2年後期）【GDSC科目】	科目区分	講義
担当者	松浦 康之・長谷川 旭・神谷 勇毅	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	人工知能(AI)によって、人間社会が大きく変化していく時代になった。そこで、AIと人間が組み合わさった社会を豊かにするためにはどのようにしていったら良いか？その一つとして、AIと人間の脳の特徴を整理して探ることはないか？その中で、「知能」や「意識」といったAIや人間について考える。そして、これから来るであろう次の時代、拡張知能や脳とAIの融合といった将来のことを国内外の動きなどを見ながら、考えていく。これによって、多面的な視野を養うとともに、その関連性・横断性を学ぶことで、柔軟な思考力と洞察力を兼ね備えるための素養を涵養する。		
授業概要	本授業では、教員による講義だけでなく、グループワークを通して、「知能」や「意識」について思考する。現代社会では、地域社会が直面する問題に対してデータ駆動型のアプローチが重要となっている。本授業では、データ収集から可視化、解析、そして結果の提案に至るまでの全てのステップにおいてグループワークを通じた実践を重視し、学生のチームワークと問題解決力を養う。なお、本講義は集中講義であるため、授業計画であげた項目の順序や内容の一部が変更になる場合もある。 【SDGs：4, 9, 16】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 「知能とは何か？」（1）事前学習 ② 「知能とは何か？」（2）ディスカッション ③ 「知能とは何か？」（3）発表、まとめ ④ 「意識とは何か？」（1）事前学習 ⑤ 「意識とは何か？」（2）ディスカッション、発表準備 ⑥ 「意識とは何か？」（3）発表、まとめ ⑦ 人間知能と人工知能の違いは？ ⑧ プレゼン、まとめ 		
予復習等	<p>【予習】AIやデータサイエンスの概念について「データサイエンス概論」や「情報・統計処理」で学んだことを復習しておくこと。</p> <p>【復習】他の発表を聞いたことや気づいたことについて自分なりに調べたり、発表準備を行う。</p>		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとのディスカッションの成果物とその発表 40% ・プレゼン 20% ・レポート 40% 		
履修条件	なし		
教科書	必要に応じてプリントを配布する		
参考書	なし		